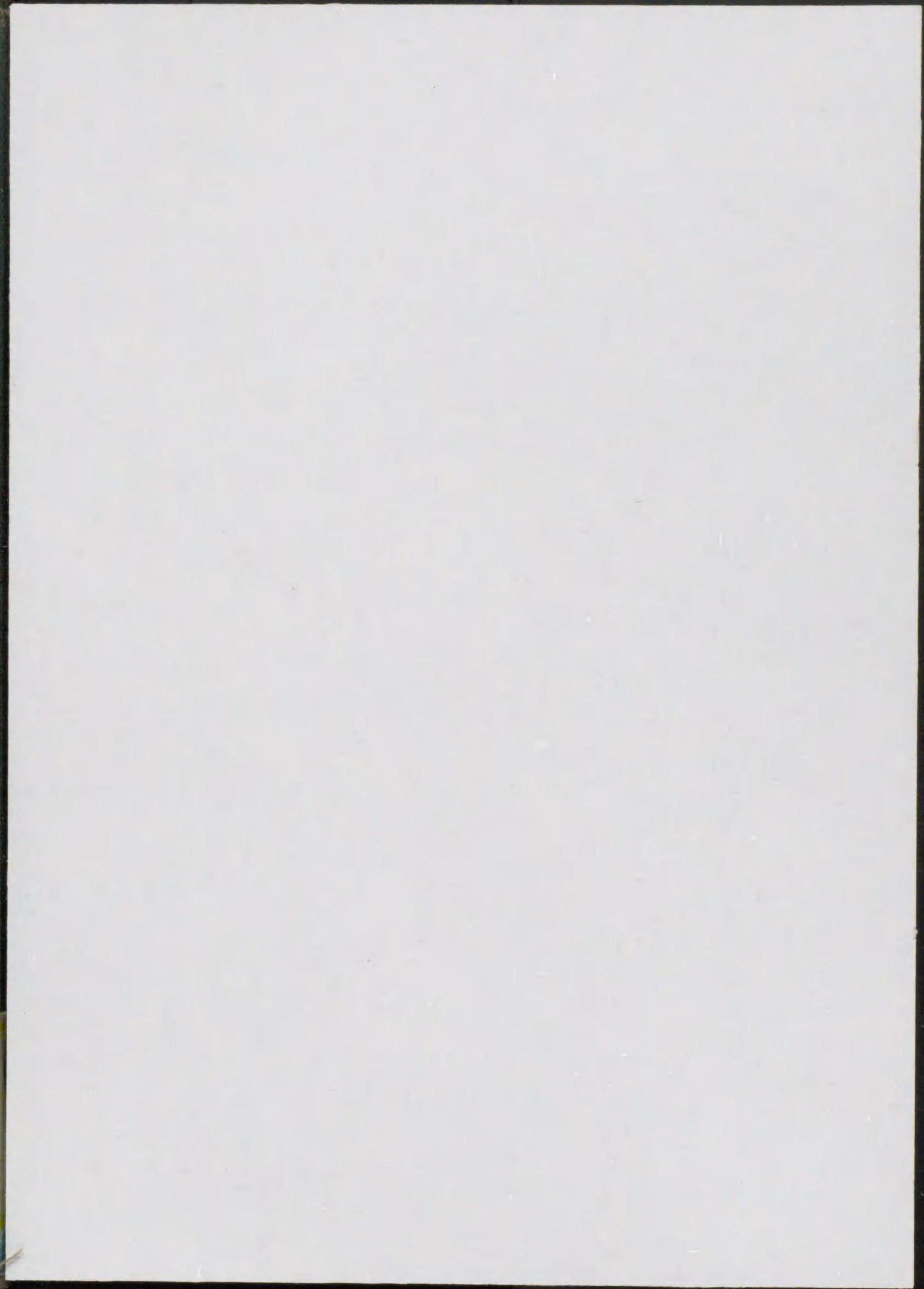


646
28
3

646-3



1200501568073



208

納本

Fr

P.

Pr

3



平内道遙譯

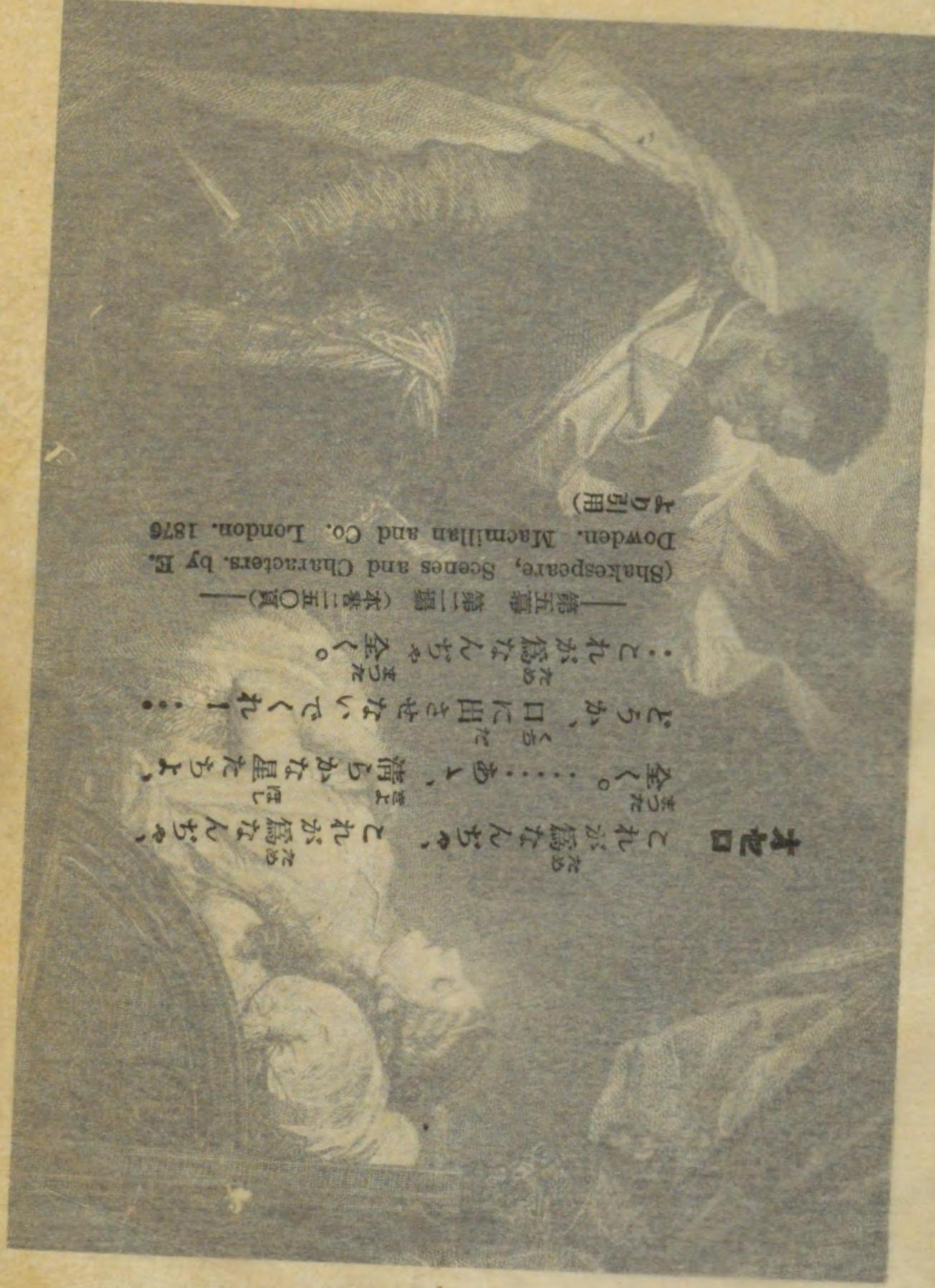
一

(新修
全集
第二十八卷)

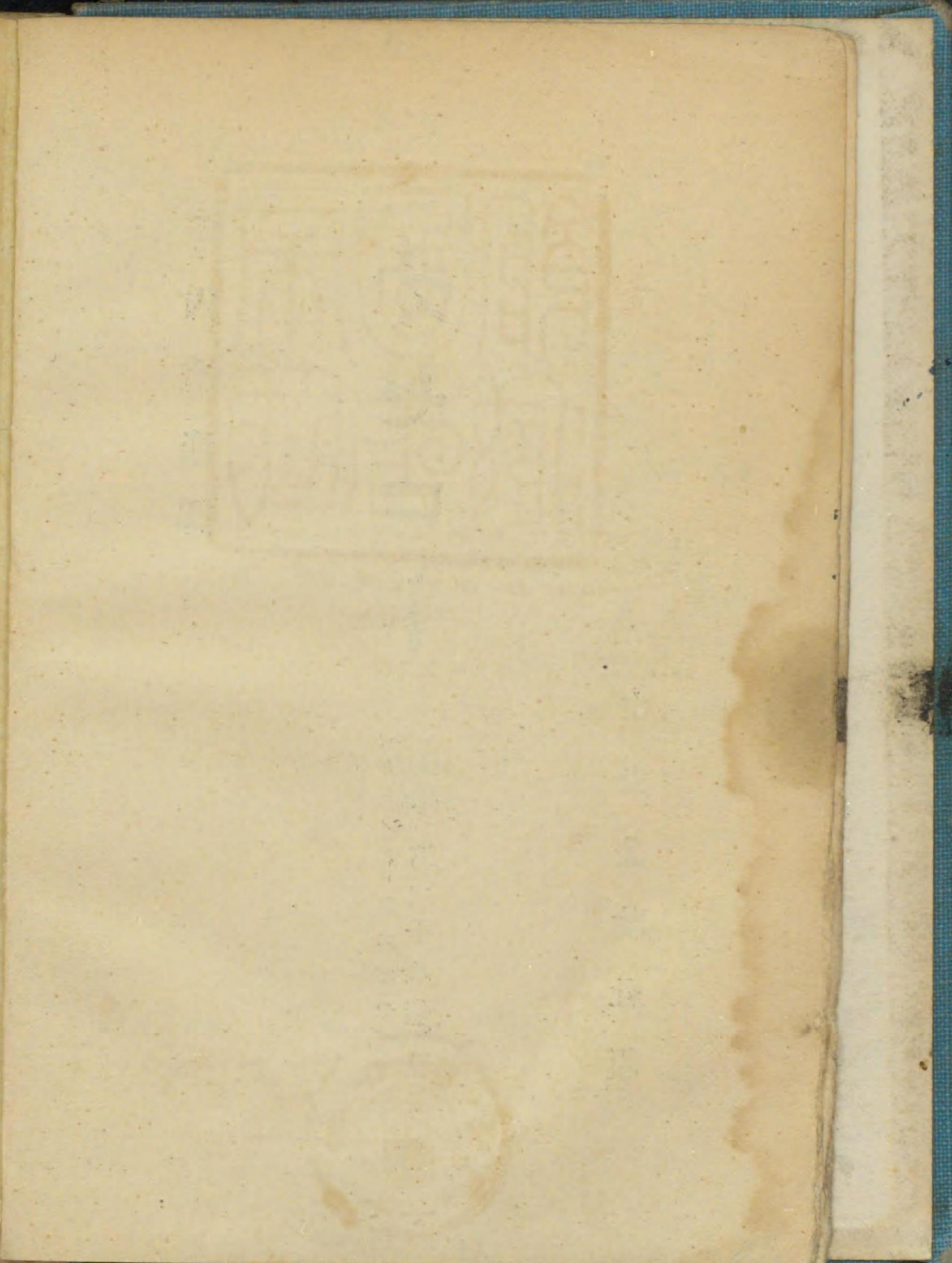


中央公論社版





オセロ オセロこれが偽らんなぢや、
これが偽らんなぢや、
まよ 清らかな星たちよ、
まよ 全く。……あゝ、
おだ どうか、口に出させないでくれ！……
まよ ……これが偽らんなぢや、全く。
まよ — 第五幕 第二場 (本書三五〇頁)
Dowden, Macmillan and Co. London, 1876
(Shakespeare, Scenes and Characters, by H.
より引用)



才也口
これが偽まごなんぢや、これが偽まごなんぢや、

全く。……あ、清きよらかな星ほしたちよ、

どうか、口くちに出ださせないでくれ……

…これが偽まごなんぢや全く。

——第五幕 第二場 (本巻三五〇頁)——

(Shakespeare, Scenes and Characters, by H. Dowden. Macmillan and Co. London. 1876

用) 才也口



七〇四用)

Dowden, Macmillan and Co. London, 1876
 (Shakespeare, Scenes and Characters, by E.
 —第五卷 第三編 (本巻三五〇頁)—

…おとは^{おと}お^{おと}を^{おと}た^{おと}す^{おと}を^{おと}全^{おと}く。

おと^{おと}は、口^{おと}の^{おと}田^{おと}を^{おと}か^{おと}な^{おと}ひ^{おと}か^{おと}う^{おと}が^{おと}…

全^{おと}く。……あ、^{おと}前^{おと}は^{おと}お^{おと}を^{おと}星^{おと}を^{おと}よ、

本巻口 おとは^{おと}お^{おと}を^{おと}た^{おと}す^{おと}を^{おと}全^{おと}く、 おとは^{おと}お^{おと}を^{おと}た^{おと}す^{おと}を^{おと}全^{おと}く。

序

「沙翁傑作集」といふ名稱の下に、早大出版部から、自分の舊譯を單行式に公刊することにしたのは明治四十二年で、其最先は「ハムレット」であった。其翌年には「ロミオとジュリエット」を、四十四年には「オセロー」を、四十五年には「リヤ王」を、大正二年には「ジュリヤス・シーザー」を、同三年には「エニスの商人」を、同四年には「テムベスト」と「アントニーとクレオパトラ」といふ順序で出版させた。すなはち、「オセロー」の舊譯は自分の沙翁譯中の最も古い集團グループに屬するものなのである。随つて、舊譯の筆致は、「ハムレット」や「ロミオとジュリエット」と同調子の雅俗折衷體であつて、今日見ると、作が家庭悲劇式、日常悲劇式の物であるだけに、折合ひのわるい箇處が「ハムレット」以上、「ロミオとジュリエット」以上に目立つ。のみならず、ところどころに誤譯もあれば、不妥當な表現も多い。で、此作だけは、今

回の新修を機會に全然口語體に改譯する事にした。

此劇の邦語譯は、戸澤、淺野二氏共譯の沙翁集中にもあれば、故菅野徳助氏のがあり、故小山内薫氏のがあり、高原延雄氏のがあり、故横山有策氏のがある。右のうち、戸澤、淺野二氏のは最も舊い式の譯文、次ぎに、菅野氏のは、獨立した譯としてよりも、注釋兼用の對譯であつて、其文致もいづれかといふと、雅俗混淆の特殊體で、簡明を第一としたためか、殆ど句毎にといつていゝ程に名詞止めに譯されてゐて、或部は歌舞伎のセリフに類し、勿論、所謂口語體とは縁の遠いものになつてゐるが、其他の諸譯は、尠くも譯者自身の抱負は現代口語譯といふ點にあつたらしく、概して拙舊譯を其粗稿扱ひにして譯出したものらしく、不思議にも譯語の順序や譯の構成が相類同してゐるにも拘らず、名詞や形容詞や、とりわけ、語尾等が、大體に於て、口語體に近附けられてある。敢て近附けられてあるといふ。純粹な口語としては甚だ不馴な、妙でない部分が多いからである。

今回、口語體に改譯するに當つては、自分も、やはり、舊拙譯を粗稿扱ひにして見た。ところが、添削しはじめて見ると、どうして、逆も名詞や形容詞や語尾ぐらゐの改訂では、それが物らしくはなりさうにないので、先づ一度、舊刊本を眞赤にしてしまつた上に、更に又、別の舊刊本へ其改訂を一句々々再考しつゝ、一行々々修正しつゝ移寫して見たが、譯語の順序も、譯の構成も、舊譯とは丸ッきり逆になつたり、或ひは寸毫の類似性をも有さないものになつたりした。

「ソネット集」の註でも一應言つておいた筈だが、沙翁を譯するに當つて、常に其手心に迷ふのは *you* と *thou* の使ひ別けである。初めの二幕に於て、オセローがイアーゴに對して *thou* と呼びかけるのは、現代口譯としては、先づ、「君」で相當だらうかと思ふのだが、第三幕以後は、同じ *thou* ではあるが、「お前」とか、「きさま」とかせねば情趣がピタリとしない。が、武人の激情の語としては、「お前」は餘り妙でないので三幕以後は「汝」で一貫させた。輕蔑の稱謂として、はなく、寧ろ非常な親

昵を暗示するものとして。

イアーゴがロダリーゴに對して使用する二人稱も、初めは *you* であり、後には *thou* であり、又、俄かに *you* に戻つてもある。勿論、そこに作者得意の性格表現の技巧が仄示されてゐる。かといつて、*you* は、いつも「あなた」、*thou* は常に「お前」、「君」、「きさま」だと思ふと見當が外れる。イミーリヤを、イアーゴは、殆ど常に *you* と呼んでゐるが、これは「あなた」又は「あんた」では折合はない。(時に、「おのし」と譯したのは、つまり、一種の窮策である。) 又、デズデモーナがイアーゴを *thou* と呼ぶが、邦譯としては、「お前」としては妙でないから、「あんた」といふ中間稱で間に合せておいた。

以上、餘計な事のやうだが、劇のセリフの情趣は主として此類の些末な言葉づかひに依つてすらも生死するものなのだから、筆ついでに一通り辯じておく。

此作のトガキは特別に詳密にしておいた。わが國でも屢々、實演される機會があ

ることを思つて、便宜を供しようとしたのである。ドレー・ウィルソンの『新シェイクスピア』は遺憾な事に、悲劇の部は、最近、ヤット「ハムレット」が一冊出たツきりで、それからどういふ助けを得ることも出来なかつた。ハリソンの『*New Reading Shakespeare*』は、多くトガキを加へたといふ吹聴ほどでなく、やゝくはしいのは、序幕第一場、第二場の初めに於ける人物關係の説明ぐらゐで、其他は至つて零碎。それらをも多少参照はしたものの、大部分は、他の譯に於ての如く、譯者自身の独自の(但し獨斷ではない)考察に成るものだと諒察せられたい。

昭和十年一月中旬

於 雙 柿 舎

譯 者

緒言

此作の特色

沙翁が三十七篇の作中で、其主題は比較的に卑近な家庭の些事に關してをり、其筋立も比較的に單直で自然に近く、而も其脚色鹽梅に於ては曲折緩急の妙を極めてゐて、頗る現代人の好尚に適合してゐるのは此作である。で、沙翁學者中にも此作を所謂四大悲劇中の第一位に置くものが多い。實演劇としての効果も、「ハムレット」とおツつかツつだといつていゝ。が、其構想も其詞藻も「ハムレット」ほどに晦澁でないから、どんな淺學者にも十分に了解せられ同感せられる。といふのは、嘗てハズリットが評した通り、此作のわれらに傳へる教訓は沙翁の他のどの作よりも人間生活に一層密接な關係を持つてゐるからである。直ちに人々の胸臆に、又、其常務に愨ふる所のあるものがある。「リヤ王」の悲哀は一層おそろしくもあればおツかぶさるや

うな迫力をも備へてゐる。が、自然味に於て、又、日常味に於て一段劣る。「マクベス」作中の熱情に對してもわれ／＼はほゞ同様に掛け離れた同情しか持ち得ない。「ハムレット」の感興に至つては、更に又われ／＼には縁が遠い。ところが、「オセロ」の興味は頗る深刻であると同時に頗る感動的であるからである。

書きおろしの年代

創作の年月は明かでない。通例は一六〇四年と推定される。刊行されたのは作者の死後第六年に出版のクワートーが最先であり、其翌年に出版された第一フォリオが其次ぎになる。右の二版はいづれも原稿を異にしてゐるらしく、クワートーの方は詞句が一百六十行ほど尠い。のみならず誤脱も多い。で、學者達は概して第一フォリオの方を正本だとする。其後も更に幾多の刊行本が出てゐる。今日普通行はれてゐるものは是等の古版を幾種も對校し參酌して出來たもので、十八世紀ごろの推定も加味されてある。

此作の材源はイタリーの小説家のジラルヂ・チンチョーの作の物語集 *Il ventomitti* と表題したものの中から出てゐる。右の物語のイギリス譯は一七九五年の *W. Pavy* のが最先でもあり、唯一でもあるといふ。沙翁はそれよりも前に此作を書いたらしいから、自力もしくは友人の助力などで、直接に原作を讀んだのか、或ひは今は傳はつてゐない古い譯書によつたのか、わからない。

原話にはデイズデモーナといふ妻の名の外は夫の姓名さへも掲げてない。夫は只ムーア人としてある。旗手の名も副官の名もない。話の梗概は下の如くである。

材源となつた小説の梗概

昔、ゼニス國に一人のムーアがゐた。勇敢で、容貌も立派 *handsome* で、智勇の功績が著しかったから、ゼニス共和國の元老連に重んぜられてゐた。同市内に *Dis-demonia* といふ驚くべき才色兼備の女がゐたが、ムーアと相愛の間柄となつた結果、兩親が不承諾であつたにかゝらず、結婚してしまつた。時に、ムーアは、元老會の

命で、俄かにサイプラス島の鎮臺總督に任ぜられて、出張せねばならんことゝなつた。ムーアが深く愁ひに沈んでゐるのを慰めるためにディズデモーナも共に戦地へ行かうと言ふ。で、ムーアは大いに喜び、勇んで出立する。部下に *handsome figure* 容姿の立派な一旗手があつた。性格は至って佞奸な、邪智にたけた悪漢であり、加ふるに頗る高慢であつたが、勇敢であり、辯舌にも秀で、風采も立派だつたから、巧みに外面を装つてムーアに取り入り、十分其信用を得てゐた。旗手の妻も相應の姿色があつて其品性も卑しくなく、又、もう既に三歳になつてゐた女兒もあつた。彼等もムーアに随伴してサイプラス島に赴いた。こゝにまた、軍隊の將官に、キャプテンムーアに深く愛されてゐた男があつた。ディズデモーナも夫の親友であるが故に常に其男に親昵してゐた。それよりも以前の事、旗手は深くディズデモーナに戀慕してをり、よりより口説きもしたが、效がないので、畢竟、これはあのキャプテンめがある爲だと邪推をして、何とかして亡き者にしようと思ひ立つた。此際、キャプテンは或行きがかり

から、劍を抜いて其部下の一護衛士を打擲したことがあつて、其爲にムーアの不興を蒙り、其職を擯はれることゝなつた。ディズデモーナはそれを氣の毒なことに思つて、頻りに調停に盡力した。或時、ムーアが旗手に向つて、妻が頻りに哀願するので、「これにはほとんど困却する」と語つたのを旗手は好い手がかりとして「それは仔細のあることです」とばかり言つて故わざと言葉を濁す。で、ムーアは疑ひを懐いだきはじめる。ディズデモーナはさういふことがあつたとも知らないで尙ほ頻りにキャプテンの爲に中裁役を力める。疑心を懐いてゐるムーアは大いに憤つて「キャプテンは卿の弟であるのか、近親であるのか」などと皮肉を言ふ。ディズデモーナは驚きもし訝りもする。それと同時に、旗手は倍々疑念を募らせるやうな讒訴をほめかす。ムーアは其確證據を知らせると求める。で、旗手は、或日、ディズデモーナが我が家へ來て遊んでゐるのを機として、彼女が三歳の女兒を抱いて居る隙に乗じて、曾てムーアが彼女に與へた刺繡のしてあるハンカチーフを盗み取り、やがてそれをキャプテン

が宿所の臥床中に投げ入れておいた。翌朝、キャプテンはそれを見て驚き、持主のデイズデモーナに返附しようと思ひ、ムーアの不在の時分を見計らつて裏戸口に音づれる。折あしくムーアが歸つてゐて、裏戸口に音づれる者のあるのを怪しみ、「何者だ！」と叫んだので、キャプテンは駭いて、匆皇として立去る。ムーアは其後ろ影を認めて、一段疑ふやうになる。其後、旗手は更に一計を案じて、キャプテンと或事に關して對話し、其様子をムーアをして遠見せしめて、只今の對話は専らデイズデモーナに關した事だと詐つて、改めて讒誣する。ムーアは悉く旗手の語を信じて、先づ、デイズデモーナに其ハンカチーフを見せよと求める。ハンカチーフを失つてゐるデイズデモーナは大いに狼狽し、詐つて捜す爲ためをして「あれは、あなたがお待ち歸りなされたのではないか」などと當座のつくりひを言ふので、ムーアはいよいよ立腹する。旗手の妻は此事の顛末を十分知つてゐたのだが、夫の怒りを怖れて事情を明かし得ないでゐる。

キャプテンにも妻があつた。其妻はハンカチーフの刺繡の尋常以上に美麗であるのを見て、それをデイズデモーナに返す前に其型を寫し取つておかうとする。其有様をも旗手が計らつてムーアに瞥見させる。で、彌々姦通したものと信じ、旗手に命じてキャプテンを暗殺させようとする。で、旗手はキャプテンを途に擁して其一脚を研る。デイズデモーナは此報を聞いて非常に歎く。それを見て、ムーアは彌々怒り、窃かにデイズデモーナを殺さうと決心して、何か好い方法はないかと旗手に議ると、旗手は囊に包んだ砂で以て打殺すのが傷痕を残さなくてよからうといひ、竟にさういふ手段でといふことに定まる。かくして旗手は夜が深けてから物置に潜んでゐて、わざと怪しい物音をさせる。とムーアはわざと不審がつて、デイズデモーナに何事であるか見て來いと命ずる。デイズデモーナは起きて、物置口に近づくと、旗手が躍り出でて毆打する、デイズデモーナはかよい聲をあげて助けを呼ぶ。ムーアも其場に臨んで、「おのれ、姦婦め、云々」と罵倒する。女は冤である由を歎き訴へて「天の神

神も照覽したまへ、云々」と叫んでゐるうちに、無慚にも旗手の爲に打殺される。さうしておいて二人は梁を落下したらしく引下して、恰も偶然に横死したもののやうに取りつくらふ。

葬儀を終つて後、ムーアはおひくゝに後悔しはじめ、孤寂の悲しみに悩むにつれて、かうなつたのは一に旗手めの所爲からと怨み、彼れを憎むこと甚しく、打殺したいとまでも思ったが、さすがに忍耐して只其職だけを襤奪する。と旗手は怨み怒つて、キャプテンに過去の祕密一切を打明け、其罪を悉くムーアに嫁する。で、キャプテンは大いに怒つて遂に法廷に告訴する。其結果、ムーアは獄に下る。が、剛情に無罪を言ひ張つて自白しないので、一旦は放免されたが、後日、ディズデモーナの同胞の爲に殺される。

旗手は、其後、本國に立歸つたが、又も人を陥れる或奸計を行ったので、法廷に引出され、嚴しい拷問を受け、其骨を裂かれ、それがもとで、家には歸つたが悶死する。

原材はこんな單純な一小話のだが、大劇詩人の想像を瀝過したために、此不易の好悲劇となつたのである。

此作に關する名家の批判

「オセロー」は、前にも略説しておいた通り、沙翁の作中では、其家庭悲劇式、日常悲劇式である點に特色があるので、ロマンチズムが衰へて寫實主義が擡頭したころには、殊に、人氣を幾倍加した作であつた。勿論、其以前にも、此作に激賞を吝まなかつた評家も尠くはなかつたが、沙翁作中の最大悲劇とまで激讚したのは、主として寫實主義全盛の影響であつたらうと私は考へる。現に、サー・ヘンリ・アーギングの如き自然な演出を好んだ名優がさういふ最大稱讚者の一人であるのに依つても、さう思はれる。

アーギングの如きは身みづから其實演に携つた俳優であつたのだから、其評が聊か壺外れであるにも拘らず、是れはおのづから別扱ひにもすべき理由があるが、其他の

「オセロー」評は、其後も優秀なもので、つい數十年前までは、主として純文學の照準で批判されたものであった。で、實演脚本としての作意、結構、人物の扱ひ方を彼れの作の主眼として批判される今日の立場から觀ると、力負けや買冠りや甚しい見當ちがひの評論が著名の諸家のそれにも多い。同じく文學本位ながら、比較的にも新しい、今尙ほわが一部の沙翁研究家に推尊されてゐる此作の批評家はといふと、多分、アンドリュウ・シル・ブラッドリー教授でもあらうが、彼れは、ダウデン教授と同じく、此作を一種の巨人悲劇と呼び、ミケランヂェロの彫像を連想させると言ひ、沙翁が之を書いたのは、ギリシャ劇の雄大を羨んだ爲ではなかつたかと想像し、「リヤ王」を除くと、他に類のない最も痛ましい、最も激昂させる、最も怖ろしい作だと讃め、其結構の巧妙さ——葛藤は比較的におそく始るが——其後は急轉直下である事、道外方も使つてはあるが、事實上、滑稽な要素はないも同然の純粹な悲劇である事、大人物（英傑）が奸奴に欺かれて邪推嫉妬を起し、爲に残忍至極な獸的行爲に墮落し

ゆく苦悶を描寫し得た事、作意が近代的、世話物的、家庭的、卑近的、宿命的である事、餘りに偶然チャンスが使用し過ぎてあるが如くにも見えるが、不思議にそのいづれもが如何にも自然らしく受取られるといふ事等——を評論して、やはり、此作を沙翁の最傑作と見做してゐる。

次に、特に、イアーゴの性格を評して、從來のには、彼れを「無動機惡漢」モテウレツス・キランと評したコールリツヂの評語の或部分とスキンバーンのそれが最も卓越してゐるのだが、とかく、其他の從來の諸評家のはイアーゴの獨白を彼れが其本心を吐露しつゝあるものと假定してかゝつてゐる點に弊があると言ひ、彼れを以て怨みがあるために復讐するとか、嫉妬又は野心の爲に人を陥れるとかいふたぐひの平凡な惡漢とは解せないで、惡其者を愛するが爲に、又は、他人の苦痛を快しと思ふが爲に惡を行ふのだとするコールリツヂ一流の解もさる事だが、それでは自然主義式の此作中の人物としては象徴的に過ぎる、メフィストに近くなる、云々、と評し、イアーゴは決して惡

其者の爲に悪を愛するのではない、否、彼れは飽迄も利己主義を以て人間の正道だと確信して、些の懷疑もなく、それを履行しようと望んでゐるのだが、所謂善良が世に存在してゐる限りは、それを公行することが出来ない爲に、一は其自尊心を傷けられもして、甚しき不平不満を感じてゐるのである、彼れは意志の人、智の人、驚くべく冷静な沈著な人物である、と評し、彼れが其獨白中に羅列するオセロー、キャッショ、其他に對する悪意の動機は、不思議にも前と後とは幾らかづつ矛盾もすれば、忘れられたやうにもなつてゐる、さながら彼れは悪を行ふの動機を強ひて探り求めてゐるやうである、コールリッヂが、彼れを評して「動機を獵しつゝある者」といったのも一理だ、と言ひ、要するに、彼れの「動機探求」は、「ハムレット」の「復讐延期理由の羅列」同様、其實、自家の了解しをらぬ或勢力の爲に驅り立てられてゐるのだが、自分ではそれに心附かず、いゝ加減な事を口走つてゐるのである、と評し、果して然らば、彼れの悪計は、やはり、「無動機の害心」^{マリックニチ}、と見るべきかといふに、決して

然らず、寧ろ、自己の優越を他の凡物の爲に蝕せられる憤りや自己の信條を、生中、世間に所謂善良人共が存在するが爲に、公然履行しがたいといふ不満が、二つには、自己の智略を、力量を現實化するのを愉快に思ふ心等が其真正の動機であらう、と言ひ、最後に、彼れはスキンバンにも既に觸説した如く一箇の藝術家^{アーティスト}である、無から有を脚色し、構想する事に妙を得てゐる、いはゞ、カーライルの所謂音節^{インアーチキョレイト}に現はさない詩人^{ポエット}だといふ風に批判してゐる。

實演臺帳としての此作の批判

以上は最近の文學的規準から見た「オセロー」評の白眉とも見るべきものなのだが、とかく、文學本位の批判家の評は、褒貶ともに、劇術に對する認識を缺き、隨つて、臺本評としては、急所を見誤つてゐる點に病ひがある。（イアーゴの悪の動機論の如きは其著しい一例だと言つていゝ。）此二十餘年來の新研究は次第に沙翁劇評をさういふ病ひから脱せしめつゝある。エルマー・エドガー・ストールの『シェーク

スピヤ劇に於ける劇術^{アクト}及び技巧^{アーティフィス}の如きは沙翁劇を主として劇術の上から見た新批評の代表である。ストールの見解に依ると、沙翁劇は(古代のギリシャ劇も同じくだが)フランスの古典劇(ラシーヌやコルネーユ等の作)乃至近代の心理本位の脚本^{シチュエーション}などとは全く別種の立場で書きおろされたものであって、其核心は話柄である、局面^{シチュエーション}である。ロマンチズム時代の評家連の考へてゐたやうに、人物の性格が主となつてゐるのではない。否、性格上からは時に甚しく矛盾してゐる場合がある。「リヤ王」、「マクベス」、「オセロー」、「ハムレット」などは其最も著しいもの。畢竟、それは、劇的效果を大いならしめるために、當時の觀衆の好尚及び慣習に迎合して、作者がわざと技巧を弄した結果だとも見られる。例へば、主人公の性格を——オセローの場合でいふと——初めの二幕の間は、豪放、磊落な、邪推などは決してせぬ、如何にも男らしい人格者即ち一英傑として表現し、且つ他の人物をして頻りに其意味の稱讚を反復させておきながら、第三幕以後となると、イアーゴに魅惑された爲とはいへ、

全くの別人格——輕々しく邪推する、甚しく神經質的な、軍人らしくもない、女々しい人物として描出してゐる。心理學的に見ると、(文學的評家らが力負けて、強ひて之を合理的に解しようとしたにも拘らず)前後大矛盾である。が、要するに、それが沙翁一流の作劇術で、局面^{シチュエーション}を主としたからである。近代の作家ならば、たとひ奸物に魅惑されて、其愛妻を疑ふやうになつたとしても、或時は疑ひ、或時は愛し、或時は殺さうとしたり、或時は殺すまいとしたりといふ風に、主人公の心裏の葛藤^{コンフリクト}を主眼とするでもあらう。ところが、沙翁は心裏の葛藤の如きは只わづかに片言隻句に依つて暗示させたのみで、専ら性格の對照^{コントラスト}を著大ならしめて、それに依つて觀衆を魅惑することに特得の技巧を弄してゐる。どうしてあんな豪放磊落な英傑的人格者が斯うまで豹變した歟、如何にも不自然だ、有るまじき事だと、少くも此作を默讀して批判する今人には不審がらせるやうな事を平氣で書いてゐる。で、彼れの悲劇は、フランスの古典悲劇(コルネーユやラシーヌの作)の如くに、主人公の胸臆から生れ

たものでなく、心理學的研究でもなく、主として觀衆の想像に惹ける所の一種の見
 せ物である。で、筋の上の波瀾が眼目となる。すなはち、相次いで偶發する種々の
 事件インシデントに依つて、激烈な情感の種々相を、又、其様々に變移する段階を、一つ／＼順次
 に力強く現示して、感情エモーションの發展デゾロフメントを如實に活寫しようとするのが沙翁の技巧である。
 性格を心理學的に描破するのが主でないから、主人公の心裏に近代劇やフランスの古
 典劇に見るやうな葛藤コンフリクトや争鬭コンテンションや躊躇オシレーションや動搖フラクチュエーションは
 ない。それらの代りに、只一の對照コントラストがあるのみである。勿論、片言隻句式の簡
 短なセリフで、多少の心的葛藤が暗示されてはあるが、對照コントラストが主眼となつてゐるか
 ら、疑ひはじめたりといふと、一圖に、一向に疑ひつゞける、疑ひはしたものの、や
 がて又大いに氣迷ひしたり、大いにためらったり、大いに後戻りあとしたりするやうなこ
 とはない。ちよつと迷ふことはあつても、其同じ瞬間に於て決心してをり、或ひは疑
 ひかけながらも、其同じ刹那に其疑念を攘ひ去つてしまふ。或時は切に愛し、或時

は大いに疑ふといふのではなく、同瞬間に二様の感情を對立させてゐる。即ち争鬭コンテンション
 ではなく、變オルタレーション更ではない。並チャキスタポチオン列であり、反オッポジション對である。蹴ヘンション蹴ストラックや苦鬭ヘンションでは
 なく、瘧コンヴァルション擊アクトクワイであり、叫喚である。で、恰もポンチック海の怒濤狂瀾が奔流するが
 如くに、其激情の猛力が主人公を、女主人公を、其運命のどん底へ突貫的に掃蕩し去
 るのである。同時に——閑室で此作を默讀批判する近代人だけは別として——觀衆
 をも、種々の不自然味をも、諷らしさをも此突進の餘勢中に巻き込んで押し流してし
 まふのである。蓋し此息をも繼がせぬ急轉直下式が沙翁得意の劇術なのである。
 之を要するに、沙翁の劇は心理學でなく、哲學でなく、近代思想的でもない。然
 るに、文學的批評家らは強ひて右の三點を彼れの作中へ讀み込むことに依つて、其缺
 陥を回護すべく力めてゐる。ブルックやブラッドリーの如き最近年の名批評家にすら
 も其失がある、沙翁は故意に對照コントラストを強調して劇的效果を著大ならしめてゐるのであ
 るのに。若し合理的、自然的に脚色するのが彼れの主旨であつたならば、初めの二

幕中で、デズデモーナやキャッシオーに對する多少の疑念を伏線しておくのは容易であつたらう。サイプラスヘデズデモーナを案内する爲に同船したのはイアローゴなのだ。が、あれをキャッシオーの役とするなども同じく伏線としては有効であつたらう。ところが、沙翁はさうはせなかつた。で、如何にも有りさうにない事とも思はれる。が、其取扱ひ方が巧妙であるから、極自然に、極順調に仕組まれてあるよりも、劇としては効果的である。前後全く別人格であるが如くにオセローを表現することに依つて、觀衆をアツとばかり驚愕させ、オヤ／＼と狼狽させて、現實的の調子以上の見事な藝當を發揮してゐるのである。

沙翁劇に伴ふ荷厄介は、其批判が從來毎に文學本位主義の精神に依つて鼓吹され指導された事である。彼れの作を心理學的一證文であるが如くに思つて、劇中の各人物の一つ／＼を現實の描寫として、箇々別々に批判しようとしてゐた事である。ところが、彼れの劇は、其實、組織であり、構造である、各部分が相依頼してもを

り、獨立してもをり、で、互ひに補充しあひ、依つて以て、初めて有意味の作となるのである。文學本位家らは此緊要點を全く逸視してゐた。天才者の効果は（ロンヂナスやゲーテやサルシー等の既に言った如く）觀衆を説服する（又は信服させる）點にあるのではなく、寧ろ彼等をして忘我させ遊神させる點にある。詩の目的は魅惑である、感情上の欺瞞である。云々。

以上、語には原文通りでない部分もあるが、ストーリーの——や、繁縛に過ぎて、讀むに煩はしい——所論の要旨はほゞ紹介し得た積りである。彼れは更に附け加へて曰ふ、「心理學と性格描寫とは別物である。前者は骨髄だが、後者は性命であり、魂魄である。前者は解剖學に比すべきものだが、後者は、都合次第で、それを隨意に加減して作成されるものである。大彫像家や大畫工が、常にそれを爲す如くに、大劇作家や小説の名手も屢々それを行ふ。すなはち、非常に單純化したり、わざと等閑視したりするのである」と。

上演略史

最古の上演は、一六一〇年四月三十日にチャーマン使節一行の爲に、地球座グローブ・シヤターに於て催されたのであった、と傳へられる。其次ぎは一六一三年で、これはデュームズ王の覽に供する爲に宮廷内で上演されたのであり、名優バーバツヂ又はバーベーチを追悼した挽歌（一六一八年ごろ刊行）中の句に依ると、右の上演に於けるオセローの役は毎に彼れであつたらしい。其後、一六二九年にも上演され、いつも好評を博したらしく、一六三七年ごろの或筆寫本にオセロー對イアゴの各場面の面白さを激賞した文句が見えてゐる。一六六〇年の十月と同六六年の八月には、例のピープスが二回までも此劇を観てゐる。

名優ベッタートンが初めて主人公役を演じたのは一六八二年であつたが、其後もたびたび勤め、一七〇九年（七十歳）までは常に之を其持役にしてゐた。アディソンはベッタートンのオセローを激賞してローマの古名優ロシユースに比し、古代にも彼れ

に優る俳優は恐らくなからうと、特にデズデモーナとのハンカチーフの件を絶讃してゐる。彼れの後のオセロー役者はハートであり、バートであり、其次ぎは、最初キヤッシオーの役でベッタートンの脇を勤めてゐたバートン・ブースであり、ブースの後繼はクキンであつた。クキンは一七五一年までに屢々オセローの役のみを勤めてゐたが、同年はじめてイアゴに扮して、バーリーのオセロー、シッバー夫人のデズデモーナに付き合つた。デーギッド・ギヤリックがドルアリー・レーンで、初めて主人公役を勤めたのは一七四五年の三月。但し此役は彼れの當り役ではなく、彼れ自身も適任でないことに心附いてゐたらしく、其後の興行では、主人公役をバーリー又はモツソップに譲り、おのれはイアゴを持ち役としてゐたといふ。

復辟レストレーション後に最も屢々上演された沙翁物はといふと、「ハムレット」であつたが、直ちにそれに次ぐものは此作であつて、其ころは興行季節毎に殆ど缺かさず上演された。當時の最も優秀なオセロー役者は、例の大名優エドマンド・キーン以前に於ては、前

記のバーリーであり、十八世紀の後半となってからは、ポエル、シェリダン、ヘンダーソンなどが代表的であった。マックリンは一度もオセロー役は勤めなかったが、イアーゴとして屢々出演した。ジョン・ケムブルがオセロー、ベンスリーがイアーゴ、名女優シッドンス夫人がデズデモーナで、上演したのは一七八五年の三月、劇場はドルアリー・レーンであった。が、ケムブルは、此役では、餘り成功せなかつた。

こゝに特筆しておくべきことは、他の沙翁作は、「ハムレット」さへも、十八世紀中には、或ひは甚しく、或ひは多少、改作又は按排されるのが例であつたのに、不思議にも、此作だけは其難を免れたといふ事である。オペラに引直されたことすらも遙かに後年の事であつた。

十八世紀のオセロー役者は（クキン及びモツソップ）は、其先輩のベッタートンやハートやブースやギャリックらと同様に、いづれも黒い顔で演じた。フィリップ・ケムブ

ルの如きは純然たる黒人らしい拵へであつた。

エドマンド・キーンがドルアリー・レーンでオセローの創演をしたのは一八一四年の五月の五日。同月の七日には、彼れはイアーゴを勤めたが、雙方とも大成功であつたらしく、彼れは或時はオセローへ、或時はイアーゴへ廻つて、幾回となく勤めた。當時の劇通の評に依ると、就中、オセローは彼れの最も微妙な努力の結實であつたらしい。といふのは、彼れは小男であつたから、バーリーのやうな、又はイタリーのサルギニのやうな其持つて生れた柄の上の長所はなかつたのだが、深刻な悲愴味を其音樂的な白廻しセップと含蓄的の仕草とに依つて表現する特技に於ては、いふまでもなく、空前であり、後世にも稀有なものであつたといふ。キーンのおセローは従前の黒い顔ではなく、淺黒い、むしろ鳶色の拵へであつたといふ。

キーン以後のおセローでは、マクリデー、フェルプス、フェシテルなどが注意される。但し三者ともに成功でなかつた。サー・アーギングのロンドンでの創演は一八

七六年の二月、劇場はライシヤム・シヤター。イアーゴはフォレスター、キヤッシオはブルック、デズデモーナはイザベル・ベートマン、イミーリヤはクロー夫人。一八八一年の五月の上演は、アーギングがイアーゴ、エドキン・ブースがオセロー、エレン・テリーがデズデモーナ。アーギングのオセローは餘り好評でもなかったが、イアーゴは大當り。テリーのデズデモーナも好評であった。つゞいて、六月中旬までに、アーギングはブースと交替的にイアーゴとオセローとを勤めて、ファンからは競演の興味を以て迎へられた。が、やはり、イアーゴのはうが其適役であつたらしい。イタリーの名優サルギニが平凡なイタリー語譯の臺本に依つて、ドルアリー・レーンでオセロー役を演じたのは一八七五年の四月であつた。柄もよく、技もすぐれてゐたので、此上演は、其當時、大評判を博した。が、譯が宜しきを得てゐなかつた爲か、沙翁の作意とは著しい隔りのある演出であつた、とアーギングは評してゐる。

其後の上演で特記すべきものは、一九〇二年十二月のリ、ック座に於けるフォルブス・ロバートソンのオセローであらう。此際のは其臺本も、各舞臺面の寫眞も残つてゐるから、それによると、其演出の實際が、髣髴し得られる。但し此演出は餘りに近代味の勝つたものであつたらしい。

實演の爲に刈込みもし、又、或程度の新按排をもした臺帳は、現に早稻田の演劇博物館に私が寄贈しておいたのが三種ある。キーンのが一等古く、トガキヤ扮装に今尙ほ多少参考するに足るものがある。(サミュエル・フレンチ版) 次ぎは、エドキン・ブースの。(これもフレンチ版) 其次ぎは一九〇二年のフォルブス・ロバートソンの臺本。トガキは普通のテキスト通りだが、主要人物の寫眞が載せてあるので、扮装の参考にはなる。サー・ヘンリー・アーギングの『沙翁全集』も刈込みの程度が明示してあるのと挿畫の豊かなので、實演者の好伴侶だといつていい。

ストラットフォードの例のベンソンも屢々オセロー役を勤めた。ドイツ人では一八四九年から一八七二年までベルリンの宮廷劇場の主座を占めてゐて、沙翁劇の役にも有名であったルートウヰヒ・デッサアール Ludwig Dessau がイギリスへ来てオセローを勤めた。それをヘンリー・リュウキスはキーン以上だとまで激賞した。

昭和十年一月上旬

譯者識

登場人名

ゼニスの公爵。

ブラバンショー、元老議員。

他の元老議員ら。

グラシャヤーノー、ブラバンショーの弟。

ロドリーギーコー、ブラバンショーの近親。

オセロー、(又はオーセロー) ゼニス政府に仕ふる將軍、ムーアの貴族。

キャッシオー、マイケーエル(又はマイカル) オセローの副官。

イアーゴー、(又はイーアアゴー) オセローの旗手。

ロダリーギー、(第一フォリオではロドリギー) ゼニスの若き紳士。

モンターノ、サイプラス島の假總督。

オセローに仕ふる道外方。

デズデモーナ、(又はデスデイモーナ) ブラバンシヨの女、オセローの妻。

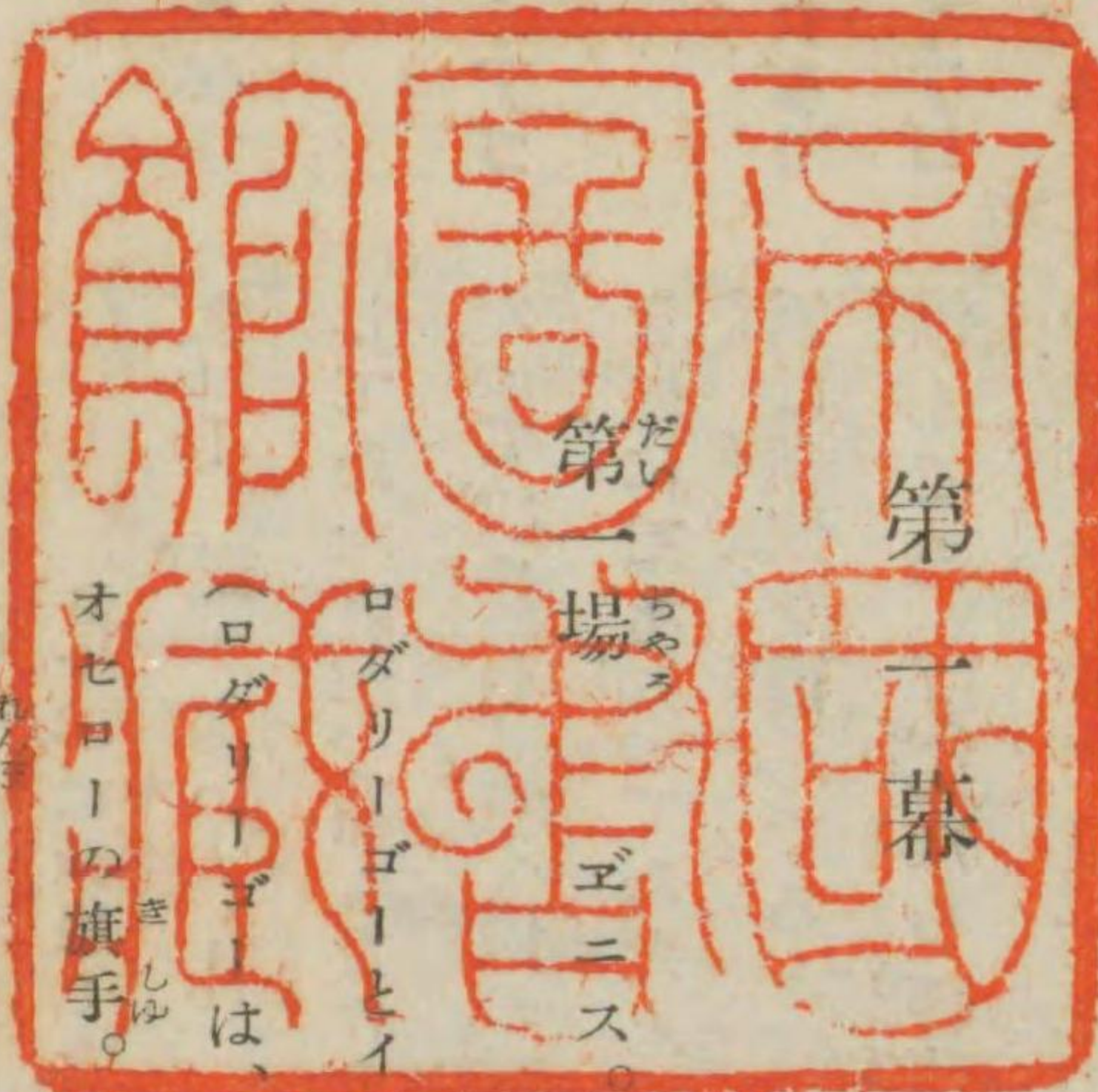
イミリーヤ、(又はエメリヤ) イアーゴの妻。

ビヤンカ、キャツシオーの情婦、賣笑女。

其他、水夫、使者役、傳令役、役人、紳士、樂人、侍者役等。

場所 第一幕はゼニス。其他はサイプラス。

オセロー



街上。

深夜。

ロダリーゴとイアーゴが出る。深夜。

ロダリーゴは、ゼニスの若紳士。イアーゴは黒面將軍

オセローの旗手。ロダリーゴは元老議官の女デズデモ

ナに戀慕してゐる。表面だけ率直で腹の黒い旗手イアーゴ

は其取持を頼まれたを幸ひに、ロダリーゴを好い食ひ物

にしてゐた。其うちに、デズデモーナはオセローと奇異な

戀愛關係を生じて、恰も、此夜、父の家を抜け出したのである。ロダリーゴーがそれを傳聞して苦情を並べるのをイア
ーゴーが巧みに辯解するが、やゝ低能なロダリーゴーだが、
さすがに承服しない。

ロダリ

えい！ 聴かない！ 僕の財布の紐を自分の同様に締めくくりを

イアゴ

だつて、貴君ア善く僕の言つてることを聴かないんだよ。僕がそれ

ロダリ

君は彼奴を憎んでると言つてゐたぢやアないか？

イアゴ

憎んでゐなかつたら輕蔑したまへ。此市の三人の歴々が、僕を彼

イアゴ

れの副官にしようてんで、帽子まで脱いで口をきいてくれたんだ

ロダリ

よ、實際、自分ながら其くらゐの値打はあるだらうと思つてゐる。

イアゴ

ところが、奴め持前の我を張つて、うぬが意見通りにするため、

イアゴ

大層らしい兵語を使つて、僕の推薦者共を煙に巻き、持つて廻つた言

イアゴ

譯の結局が、實は、最早、其副官は定めてしまひました」と來た。

イアゴ

といふのは何者かといふと、いや、どうも、素敵な算術家なんだ、

イアゴ

マイケーエル・キャツシオーと言ふ、女難で地獄へ墮ちさうな男だ、

イアゴ

フロレンス生れで、曾て軍隊を指揮したことなんかアはなく、兵の

イアゴ

掛引と來ちやア、長袖の文官共でも知つてゐるやうな書物上の空論以

イアゴ

外は、糸繰女のそれにも劣らうといふ知識が其奴の身上なんだ。

イアゴ

實力はカラ駄目、辯口ばかりで奴だ。ところが、其奴が登用され、

イアゴ

ローヅでも、サイプラスでも、基督教國、異教國、到る處で、手並

イアゴ

を見せた筈の此俺は、其帳簿どんの風ッ下に追ひ下げられて、其算

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

イアゴ

勘のお名人様がまんまと副官に御立身だ、俺は……あゝ、なんま

みだぶつ……ムーアどんの旗手だ。

ロダリ

ほんとに、僕ア彼奴の絞罪係りになりたいとさへ思つてゐる。

イアゴ

だつて、爲方が無いよ。これが勤務上の災厄なんだ、呪ひだ。今

日びは最良や引立で立身が出来る。順繰りやアない、昔は一の者の

後継は二の者といふ風であつたが。それで判断するが、いゝ、俺が

あのムーアに忠義を盡さんけりやならん理由があるか、どうかを。

ロダリ

僕ならあんな奴に隨身しちやアゐない。

イアゴ

まアさく。自分の都合で隨身してゐるんだよ。人間は、皆が皆、

頭になれもせなけりや、頭になつたからつて、皆が皆に、忠實に隨身

して貰ふことも出来ない。随分世間には膝をひよこつかせて忠義三

味をする馬鹿正直な奴等もある、其奴等は主の驢馬も同様に柔順く

鞭を掛けられて、飼料だけ貰つて満足して、耄けるまで働いてから

追ひ出される。さういふ奴ア叩き倒してくれたい。中にア又、面

附だけ忠義さうに飾り立て、内心は自分に仕へて、殿様へは御奉

公の外面だけを獻納つて、絞れるだけを絞り、懐中が温かくなると

いふと、自分をお殿さまにする奴等もある。それらは幾らか性根

玉のある奴等だが、俺が其一人だ。はて、若し俺がムーアであり

や、俺がイアゴーで無いことは君がロダリーゴーである程に確か

だ。彼奴に隨身するは自分に隨身する爲だ、忠義の爲ぢやア無い、

さう見せかけてゐて、實は自分が爲だてことは神様が善ツく御存じ

だ。何故と言ひたまへ、僕が本心を外部へ曝け出すやうになりや、

早晚、此心臓を袖に載せて小鳥めに啄かせることになるだらう。見

懸通りの男ぢやありやしないよ。

ロダリ

何て果報者だらう、あの厚唇めは、若し以て旨く占めツちまやアが

るやうなら!

女の親父を呼び立て、叩き起したまへ。奴の後を追ッ掛けて、樂しみに毒を注ぎ込んで、街中へ觸れ散し、それから女の親族共を煽り立て、奴がどんな極樂に住んでおようと、蛇や蜂で苦しませてやりたまへよ。奴の喜悅を奪ふことは出来ずとも、色なりと取ッ變ッちまふやうに、さんざ苛責んでやりたまへ。

此中に、二人ともブラバンシヨ一の屋敷の前へ来る。

ロダリ

これが彼女の親父の家だよ。大きな聲で呼ばらう。

イアゴ

さ、さ、けた、ましく呼び立てたまへ。繁華な都會中で、深夜に油斷の最中に、突然火事を見附けたといふ風にね。

ロダリ

もし、もし、ブラバンシヨ一どの! ブラバンシヨ一様、もし、もし!

イアゴ

起きなさい、もし、もし、ブラバンシヨ一どの! 盗賊です!

盗賊です! 盗賊です! お屋敷内をお調べなさい、お嬢さんを、お財囊を! 盗賊です! 盗賊です!

ブラバンシヨ一が半裸體のやうな寢衣姿で樓上の窓口に現はれる。

ブラバ

けた、ましく呼び立てるのは何の爲ぢや? 何事が起つたんぢや?

ロダリ

閣下、御家内は御別状はございませんか?

イアゴ

戸締りは善うございますか?

ブラバ

何でそれを尋問ねるんぢや?

イアゴ

はて、さて、御盗難ですぞ。やれ、ま、見ツともない、早く上衣をばお召しなさい。貴下の心臓は破られましたぞ、貴下の魂ひは半分がた亡くなつたんですぞ。現に、今、年寄りの黒羊が貴下の許の白羊に乗り掛つてゐるんです。さ、早く起きておいでなさい! 早く

鐘を叩き鳴らして眠てゐる市の者をお起しなさい、でない、鬼が
貴下をお祖父さまにしますぞ。さ、さ、起きたりく。

ブラバ やい、汝らは氣が狂うたのか？

ロダリ もし、元老院議官さま、私の聲にお覚えがございますか？

ブラバ いや、無い。誰れぢや、お前は？

ロダリ ロダリーゴーでございます。

ブラバ 尙ほ悪いわ。我が家の前を徘徊くたと申し附けておいた筈ぢや。

又、眞ッ直に我女は遣られんと明言しておいた筈ぢやに、晚餐の狂氣
水に喫ひ酔うて、狂人の爲體となつて、おのれ、害心を抱いて、予
が安眠をば驚かさうとして來をつたんぢやな。

ロダリ あゝ、もし……いや……もし……

ブラバ 併しながら、予には勇氣もある、身分もある、今に見い、今宵の所

行を後悔させてくれるから、さう思へ。

ロダリ ま、ま、さうおつしやらないで……

ブラバ 何で盗難ぢやなどと申すんぢや？ こゝはゼニスぢやぞ。予が屋敷

は野中の一軒屋ぢやないわい。

ロダリ ブラバンショーさま、私は誠實な心でお知らせに參つたのでござい

ます。

イアゴ ま、めつさうな、貴下は悪魔に指揮されりや、神様にお事へするこ

とさへもお止めなさりさうなお人だ。御忠告に來た私共を惡漢だ
なんぞと思つてござると、大事のお嬢さんをバーバリー馬めが物に
して、今にひん／＼言ふお孫さんや曾孫さんが出來ますぞ、御親類

に種々な馬が出來ますぞ。

ブラバ 何て汚穢しい奴ぢや、汝は？

イアゴ もし、私はお嬢さんとムーアとで以て背中の二アつある獸類を製造へてゐることをお知らせ申さうとて來たもんなんで。

ブラバ 悪黨ぢや、汝は。

イアゴ 貴下は……元老院の議官さままで。

ブラバ (ロダリーゴーに) 此責任は汝にある。ロダリーゴー、予は汝を善く知つとるぞ。

ロダリ さア、どんなお咎めでも受けませうよ。ですが、若し貴下さまが御承知の上で、どうやらさうらしうも思はれるんですが、一時二時といふ此眞夜中に、大事のお嬢さんを、船頭の外にやお従者をも従れさせないで、あの淫亂なムーアの手に渡して、勝手な眞似をおさせなされた事が、それが御承知の上でありや、私共は非常な失禮をしたのでございますが、若し御存じでないのですなら、其お叱責は御

無體でございます。決して貴下を禮儀作法に背いて嘲弄なんかしてるのぢやございません。改めて申します、お許可が無くってなら、お嬢さんとはんだ不埒をお働きなすつたのです、あっちこっちと漂浪徘徊る外國人に義務をも御標致をもお智慧をも御運命をも何もかも與つておしまひなすつたんです。早速お調べなさいまし、若しお嬢さんがお居間になり、お屋敷内になりござりましたなら、貴下を欺いた科で如何な御處分でも甘んじて受けませう。

ブラバ (俄かにあわて出して、奥にむかつて) ころく、火絨をくく！ 蠟燭を持って來い！ 家中の者を呼び立てい！……夢見がわるいと思つてゐた。こりや如何やら眞實らしいわい。……燭火！ 燭火！
ブラバンショーうるたへて入る。

イアゴ さよなら、これで別れんけりやならん。こゝにゐりやムーアめの敵

役にならんけりやならんが、そいつア職柄上、妙でない。といふのは、たとひ此事で彼奴が何様に痛めつけられようともだ、政府は平氣で奴を罷めさせるわけにやアいかない。何故ッていふに、恰ど始つたサイプラスの戦場へ、總督として送られようて器量のある人物は奴の外にやア無い。だから、地獄の拷問ほどに奴を憎いと思つたつて、斯うして生きてゐる必要上、(いやでも)友誼の旗印を掲げてゐにやならないんだよ、が、そりや徒の看版だ。……ねえ、君、間違ひなく見附ける爲に、集つて來た追手速をサヂタリー館へ案内して來たまへ、俺も彼處に居るから。ぢや、さよなら。

イアーゴーが急いで入る、と同時にブラバンシヨが把火を
持つた家僕共を大勢つれて平舞臺へ出る。

ブラバ

(興奮の態で) こりや全く疑ひもない災難、女は居らん。あさましい

將來には只もう悲歎があるばかりぢや。……こりや、ロダリーゴー、何處でお前は女を見た? ……お、不幸な奴! ……ムーアとしよにわたといはつしやるか? ……あ、親にやアなるまいもの! ……どうして予の女ちやと言ふことが解つたか? ……お、かういふ事をしをらうとは! ……女はお前に何様な事を言うた? ……(家僕らに) もつと把火を持って。親類共を残らず起せ。……(ロダリーゴーに) もう結婚してしまつたのか? ……(ロダリーゴーに) 勿論でございますせうよ。

ロダリ

ブラバ

やれ、如何して脱け出しをつたか? ……お、現在血を分けた我が子が! 親達よ、これからは行爲の外部だけを見て、娘どもの心はば信ずまいぞ。或ひは若い者共の心をば惑亂さする魔藥などがあるんぢやないかな? ……ロダリーゴー、そんなこと

を何かで讀んだ覚えはないか？

ロダリ はい、讀んだことがございます。

ブラバ 實弟を起せ。……お、お前に女をやりやアよかった！……(家僕

らに) 汝は彼方へ、おのしは其方へ。……(ロダリーゴに) 女とム

ーアめを取押へるには何處へ往つたらよからう？

警護の人達をお伴れなすつて、私と一しょにお出向き下されませ

ロダリ ば、大丈夫、見附けまする。

ブラバ 案内して下さい。家毎に呼び立てよう、大概の家は子の命令を聽

くであらう。……(家僕らに) 武器を持って来い、やい！夜

廻りの役人どもを起せ。……さ、さ、ロダリーゴどん、今に此

骨折に報いをします。

ロダリーゴに案内されて、皆々入る。

第二場 彼の街上

黒將軍のオセローとイアローゴが把火を持った從者大勢を從へて出る。此街の或家にデズデモーナが匿つてあるのである。恰も其家の附近での問答と解してよい。

(イアローゴは先走りして、オセロー主従に會ひ、ロダリーゴの事をさんぐあしざまに告げ口して、おのが信用を増すべく力めた。オセローは其過去生を悉く艱苦と戦役とに費した至って横直な武人なのである。戰場に臨んでは驚くべく冷静で沈著で勇敢でもあるのだが、俗世間の事には極めて迂闊な好人物、だから、イアローゴの率直めかした巧妙至極な諂諛に欺瞞され、其言ふまゝを信ずるのが例になつてゐる。)

イアゴ

戦争ぢや人殺しもしましたが、企んで殺すの、此良心が許しません、不正な根性が足らな過ぎるんで、時々損をします、八九度も奴の肋ツ骨の下の此處とこをズブリヤツつけようかと思つたんでした

オセロ

いや、さうせんかったはうがえい。

イアゴ

だつて、奴め、ぺら〜と貴下の事を口穢く悪口しました。私は聖人ぢやありませんから、迎も堪忍が出来にくかつたんです。……それはさうと、御結婚は確乎お済しなさいましたか？ あの議官どの

オセロ

は人望があつて、實際の勢力は公爵さん以上なんですから、此御結婚を無効にするか、或ひは其権力で以て、國法の許す限り、貴下を譴責しようとするに相違ありませんよ。

ぐらゐは沈黙させるぢやらう。まだ人には言はんが……自慢を名

譽ぢやと思つたら、公言もしようと思ふとるが……予は王族の血

統ぢやから、今度手に入れた幸福（結婚の）位ゐは、當然大威張で要

求し得る價値があると思つとるんぢや。なア、イアゴ、畢竟は

ぢや、あのデズデモノナどんが可愛けりやこそぢや、でなきや、何で

此天地間に家を有たん自由な身を（家庭なんぞといふ）窮屈な境涯に

易へようぞい、大海（に有る限り）の寶物に易へても……や、あれ

を見い！ 何ぢや、あの把火は？

あれは起きて來た父御や縁者達ですよ、キツと。お隠れなすつたは

うが善うごせう。

うんにや、隠れぢやならん。予の徳や身分や潔白な精神に相當する

やうに行ふべきぢや。……彼等か？

イアゴ さうぢやないやうです。

キヤッシオーを先きに公爵からの或役人らが把火を持って出る。

オセロ や、公爵の御家来衆、おゝ、副官か！ 先づ、機嫌ようて！ 何事

か起りましたかな？

キヤッシ 公爵の御説です、すぐ大急ぎで御出頭なされますやうにとの事でご

ざいます。

オセロ 何事が起つたんぢやらうなア？

キヤッシ サイプラスから何か知らせがあつたらしう存ぜられます。急を要す

る一大事でございます。今晚、軍艦からの注進が十二たびほど接
踵して参著しましたので、議官達は悉く起き出でられ、既に公爵
殿の御許で御會合でございます。 貴下をば急いで御召しましたが、
お宿にお見えになりませんので、お行方を尋ねるお使者を、元老會

は三方へお遣はしになりました。

オセロ こゝで逢うてよかつた。こゝの家に一寸いひ残しておいてから、一
しよにゆかう。

とオセローはデズデモーナを匿つてある家へ入る。

キヤッシ 旗手どの、將軍はこゝで何をしてをられるんです？

イアゴ さア、今夜、ある大きな陸船を手にお入れなされたんです。若しそ
れが合法的な鹵獲物と定りやア、將軍は一生大果報者でさ。

キヤッシ わからないねえ。

イアゴ 御結婚なすつたんだ。

キヤッシ え、誰れと？

イアゴ はて、あの、デズ……

といひかける。 此途端に、オセローが戻つて来る。 で、イ

アーゴは話題を轉じて

さ、將軍、参りませう？

オセロ おゝ、往かう。

キャシ あ、あそこへ、貴下をお尋ねしてゐる別の組が参りました。

イアゴ いや、ありやブラバンショーですぞ。將軍、御用心なさい。悪意を

抱いて参つたのですから。

ブラバンショーは、ロダリーゴーに案内させ、把火や武器を
持った警護の者大勢を従へて出る。

オセロ こら！ まて！

ロダリ (ブラバンショーに) 閣下、ムーアでございます。

ブラバ (警護の者に) それ、盜賊を叩き伏せい！

警護の者が氣込む。

イアゴ うぬ、ロダリーゴーめ！ さ、來い、汝の相手は俺だ。

とロダリーゴーへ躍りかゝらうとする。オセロの従者ら
も劍を抜いて氣込む。とオセロは雙方の間へ割つて入つて
押し隔て、沈著に

オセロ ぎらつく劍を鞘に藏めい、夜露で錆るわい。……(ブラバンショーに)

はて、武器なんかお用ひなさらずとも、閣下の御年齢で以て立派に
御命令が出来ましたらうに。

ブラバ (怒り猛つて) おゝ、おのれ、汚穢しい盜賊め、女を何處へ匿しをつ
た？ 非道人の其方、(妖術を以て) 女を惑はしをつたに相違ない。

……分別力のあるあらゆる人々に訴へる、魔術の鎖にでも縛られ
んけりや、あんな柔和な、美しい、幸福な少女が、同じ國の風流な
貴公子をさへも避くる程に婚禮を嫌うてをつた娘が、世間の物笑ひ

となるをも關はず、親の手元を脱け出して、見るから怖ろしい汝の如き者の其眞黒な胸元へ駈け込むといふ筈がない！……世間の人よ、判断せい、こりや解り切つてをることぢや。……汝が汚穢しい魔法を使うて、心を鈍うする薬石などを用ひ、繊弱い女をば欺騙したに相違ない。キツと糾明せんではおかんど。たしかにさうぢや。キツとさうぢや。ぢやによつて、引ッ捕へて引ッ立つる、國家の風俗を亂し、禁制の邪法を行ふ罪人として引ッ立つる。……（警護の者に）彼奴を取押へい。手向ひしたら用捨には及ばん。

雙方共に又も立掛かる。

オセロ

（峻嚴に）控へい、雙方共に。（キャッシュオーらに）戦はんけりやならん機なら、指揮役（黒衣）なんか待たんわい。……（ブラバンショーに）何處へ參つたらよろしいのです、其申し譯を致しませうが。

ブラバ

牢へ行け、規定通りの期が来て、汝を法廷へ呼び出すまで。

オセロ

さうしても差支へはありますまいかな？ それで公爵殿が御満足なさりませうかな？ 差掛つた御用向とあつて、只今お使者が參つて出頭を命ぜられた所ですが。

役人甲

いかにも、其通りにございます。公爵は恰も御會議中です、閣下の御許へもお迎ひのお使者が參つたに相違ございません。

ブラバ

えッ！ 公爵殿が御會議中！ 此眞夜中に！……いや、彼奴を引ッ立てめされ、わしの此訴訟は些屑事ではない、公爵殿をはじめ同僚の誰れ彼れとても、よも之を餘所事ぢやとは思はれまい。此様な行爲をば打棄て、おくやうでありや、奴隸や異教徒が我が國の政事を取行ふことゝならう。

皆々入る。

第三場 會議室。

公爵をはじめ元老院議員ら卓子を圍んで著席し、サイプラスからの報告を評議してゐる。扉口には若干の役人らが立つてゐる。

公爵

此等の注進は矛盾してゐるから信ぜられぬわい。

議官甲

いかにも、區々でございます。此書面には百七艘だとあります。

公爵

わしの中には百四十艘とある。

議官乙

手前には二百艘とございます。數こそは正しう合ひませんが：

：推測の注進には斯ういふ相違はありがちでございます。とにかく、トルコの軍艦がサイプラスへ攻め寄せまする事だけは何れも符合致してをります。

公爵

いや、有り得べきことぢや。多少の錯謬があつたからとて、安心は

水夫

出來ん。心懸りな知らせぢや。

役人甲

(奥で) あ、もしく！ あ、もしく！ あ、もしく！

水夫

軍艦からの注進でございます。

公爵

何事ぢや？

水夫

トルコの軍勢はローヅ島へ向つてをります。さやう申し上げいとア

公爵

ンデエローどのが申されましてございます。

議官甲

諸君、どう思はれる、斯う模様の變つたのを？

公爵

どう考へましてもそんな筈はありません。身方の目をくらます謀

議官甲

計でございます。サイプラスはトルコに取つては大切の要衝地で

公爵

ございます、而もローヅ程に警備されてゐないので、之を陥

すのは一段容易です。其理を考へますと、略るに容易く、得れば益の多い第一の要害を後へ廻して無益な冒険をするほど、それほど無謀な、トルコとも存ぜられません。

公爵 いや、大丈夫、ローヅへ向ふのぢやあるまい。

役人甲 また注進が参りました。

他の使者が出る。

使者 申し上げます、土耳其人はローヅを指して進んでをりましたが、同

處で後陣の艦隊と連合いたしましたしてございます。

議官甲 さうあらうと存じてゐた。……何艘ほどと見えたな？

使者 三十艘ほどでございます。只今、元の路へと漕ぎ戻りをりますが、

サイプラスを屈指してをりますことはもはや明白でございます。

以上は忠勇の御臣下、モンターノ殿から、何卒御信用下されます

やうにとの誠意の御注進でございます。

公爵 ぢや、サイプラスへ攻め寄せると定つた。……マーカス・ルーチー

コスは當市にをるかな？

議官甲 只今はフロレンスへ参つて居ります。

公爵 ぢや、書面を遣つて下さい、大急ぎで。

議官甲 ブラバンシヨールとムーアが参りました。

ブラバンシヨール、オセロー、イアーゴ、ロダリーゴ及び役人ら出る。

公爵 オセロー將軍よ、公敵土耳其人を追討の爲に、即刻出張して貰はねばならんことになつた。……(ブラバンシヨールに) おゝ、あなたのをるのに氣が附かなんだ。よう来て下すつた。今夜の事件に就いて貴君の意見を聽いて助力を乞ひたう思うてゐた所ぢやつた。

ブラバ 手前もでございます。失禮ながらお赦し下されませう、かく夜中に起き出でましたのは自分の役柄を重んじました爲でもなく、御用向を傳聞いたした爲でもなく、國家の安否を思ひました爲でもございませぬ、我が身に係る愁傷が井堰を越えて氾濫し、餘所他の悲歎を呑み盡し、今尙ほそればかりが漲つてをります。

公爵 とは又、どうした事なんぢやな？

ブラバ 女が！ おゝ、女めが！

衆議官 えッ、亡くなられましたか？

ブラバ 手前に取つては亡くなつたも同然です。はい、誑されました、盗まれました、庸醫師から買った魔薬で、妖術で弄辱められたのでございます。と申すのは、苟も分別力があり、不具者でなく、盲でも無い人間が魔法にでも昏惑されんければ斯様な不合理な過ちを致す

答はございません。

公爵 はて、それが何者であらうとも、さやうな非道を行つて、貴君の女さんを奪ひ、また其娘さんの操をば奪うた不埒者は、貴君自身國法の明文に照らし、最も嚴重に處分なざるがよろしい、よし其犯人が予の實子であらうと、容赦には及びませんぞ。

ブラバ 有難く存じます。(オセローを指さして)此ムーアが其犯人でございます、國家の御用で特にお召寄せとやら拜承りましたが。

衆議官 やれ、それは氣の毒千萬！

公爵 (不審げに、オセローに)で、之に對して貴君の言ひ開きは？

ブラバ 何も(言ひ開きなその)あらう答がございません、全く其通りなのでございます。

オセロ 國家の大權を扱はせらるゝ元老方、敬愛致しをりまする議官方に申

し上げまする、手前が此御老人の令嬢を伴れ去りました事は事實であります。事實、結婚もいたしました。但し手前の犯罪の源泉は只それツきりでございます。手前は甚だ口不調法でありまして、平和の際に用ひまする柔和な語遣ひは至つて下手でございます。と申すは、吾等の此腕は七ヶ年生長ちますと、それ以來今日まで、只九ヶ月程を除き、常に陣營でばかり全力を盡してをりました、随つて、戦争以外の此廣い世界の事は、手前甚だ不案内で、何も能う話さんのでございます。でありますから、手前の利益になるやうな申し開きは逆も能うすまいと存するのであります。が、諸閣下のお許可を蒙りまして、手前が情事の経路を只有體に申し述べて見ませう、如何な藥、如何な禁厭、如何な呪文、如何な妖術で以て……さういふ手段を用ひたといふ嫌疑でありますから……彼仁の女を

ブラバ

手に入れましたかを申し述べませう。
 處女は決して大膽なもんぢやない。平素はあんなにしとやかで、静かで、わが心の動搖に對してさへも面を赧めるやうな娘が、そんな恍惚娘が、性にも、齡にも、國土にも、外聞にも、あらゆるものに背いて、見るさへも怖ろしう思うてゐたやうな者に戀慕する筈がありませんか！ そんな心得違ひを、自然の法に逆らうて、圓滿な性格の女がしようなどは不具な、間違ひ切つた判断でございませ、悪魔の所爲でなうて何で其様な珍事が起りませうぞ？ ゆゑに、手前は改めて誓言仕りまする、血を掻き亂す藥劑か、乃至同様の效驗あるやうに禁厭うた或飲料を以て女をば惑しをつたに相違ございません。

公爵

誓言をしたからとても證據にはならんわい、只今申し立てたやう

議官甲

な、淺薄な推測以上に、もつと明確な、證據があらばともかくも。
オセロどのに承はりたい、お手前は果して邪曲な手段を以て敢て其少女を感しめされたのであるか？ 或ひは正當に言ひ寄られ、心と心とが相許した結果、慇懃になられたのであるか？

オセロ

どうか、サデタリー館へお使者を遣はされまして、婦人をお呼び寄せの上、其父の面前で御訊問下されませ。彼女が手前を非道人のやうに申し立てましたら、奉職つてをりますお役目悉くお取上げの上、此一命をもお取り下さい。

公爵

デズデモーナを伴れて来い。

オセロ

(イアーゴに) 旗手、御案内をせい、處は、君が善う知ツとる。

イアーゴ並びに公爵の侍臣數人入る。

婦人が参りますまでに、天に對して申しますやうに、謹んで元老諸

公爵

閣下に、手前が内情の過失を正直に打明けて申し上げます、如何にして彼の婦人の歡心を得るに至りましたかを。

オセロ

お話しなさい。
婦人の父が手前を愛してくれまして、屢招いてくれまして、定つて手前の經歷を訊ねました。年から年へと経來りました戦争や、城攻や、勝敗の模様などを。手前はそれを悉く話しました、幼年の際の事から、話せと求められました其間際の事までも。不幸極まる災厄、海上乃至戰場での怖ろしい出來事、間一髪で危険を脱しました話、残忍な敵に捕へられて奴隸に賣られ、後に身請され、諸國を遍歴いたした話、だゞ廣い洞穴、或ひは荒れ果てゝ人跡のない荒野原、或ひはけはしい石山、或ひは天にとゞきさうな山や大岩の事等を話しましたのが手續きであります。それから又、同胞

相食ふキャニバルの事、食人族の事、肩の下に首のある人種の事なぞも。それをデズデモーナは熱心に聴きたがったのであります、ところが、家事向の用があつて、とかく、呼び立てられます。それを又、急いで済まして戻つて参つて、恰も、貪り食ふがやうにして手前の話を聴いたのであります。で、それを觀まして、或時、好き機會に於て、手前の一生の閱歷を更に詳細と話してくれと改めて望ませまするやうにしむけました、斷片的には聴いてゐたが、一貫しては聴いてはをらんからと申させるやうにしむけました。それを手前承諾いたして、先づ、幼少の折の艱難辛苦を話しまして、折々彼女に涙を落させました。話し終りますと、彼女は其報酬に夥しく溜息を致しまして、實に不思議な、非常に不思議な、氣の毒千萬な事、實に氣の毒な事ぢやと申しまして、あゝ聴かなんたらばよ



かつたと申しながらも、あゝ、若しさういふ男を天がわしに下されたならばなアと申して、手前に感謝し、若しも手前の友人に、彼女を愛する者があつたら、手前の履歷話を話せと言へ、さうすれば彼女は忽ち其人を切愛するやうになるであらうと申し聞きましたのであります。で、それに力を得て、手前は意中を打明けました。彼女は手前の艱難に同情して手前を愛し、手前は同感してくれましたゆゑに彼女を愛したのであります。これが用ひました唯一つの妖術なのであります。……あれへ婦人が参りましたから、其證言をお聴き下されませ。

デズデモーナ、イアーゴー及び侍者役らが出る。

公爵 さういふ話を聴いたら、予の女とても或ひは心を動かされるであらう。ブラバンショー、既に瑕が附いてしまった上は、及ぶ限り繕ふ

ブラバ

やうにしたが利方ぢや。折れた武器でも空手よりは優ぢや。
女めが何と申すかをお聞き下さい。半は彼女からも言ひ寄つたやうに申しをりますのに、尙ほ手前が彼れを罪人視いたすやうでありましたら、此頭の上に破滅下れ！……(デズデモーナに)こりや、女よ。お歴々が御列座なされるところで問ふぞよ、其方は誰れに第一に服従せねばならんものと思つてをる？

デズデ

お父さま、わたくしの義務は、こゝでは二つになつて居るのでございます。生の御恩、養育の御恩のあるお父様はわたくしの義務の主でおありなさいます。ですから、それに對してはお父様を第一に尊敬せねばなりません。これは女としての務めなのでございます。けれども、今はこゝに夫がをられます、お母様が貴下を其お父様以上じやうだいじに大事になされましたと同じに、わたくしも夫のムーアどのに務

ブラバ

めを盡さねばならんと存じます。
(大不快の體で)ぢや、機嫌よう暮しやれ、さよなら！……(公爵に)もう濟しましてございます。どうか御用向をお進め下さい。……實子よりも貰ひ子のはうが優であつたわい！……(オセローに)ムーアどの、こゝへござれ。……さ、只今、此女を心から、お主に遣はしますぞ、まだ手に入つてをらなんだなら、心から、遣はしたうはない女でござるが。……(デズデモーナに)女、其方ゆゑに、又と子の無いのを俺は心から喜んでをる、其方の此様な不埒をしをつたから、俺は心が酷くなつて子供らを嚴重にばかり取締りさうぢやから。……(公爵に)もう濟しましてございます。

公爵

あなたの身に似合はしい訓言を申して見よう、それが踏段ともなつて雙方の仲直りの助けとなるまいものでもない。……救ふ道の無

い場合には最悪を覚悟すると、歎き却つて終局するか、生中、依頼があるが増長する。過ぎ去った不幸を哀しむのは新しい不幸を招く基である、禍厄が来て救ひがたい時は忍耐すると、それが轉じて調戲ともなる。物を奪られても笑つてゐりや、奪つた奴らから幾分かを取返すこともなるが、益もない悲歎にくれるのは更に又自ら失ふのである。

ブラバ

然らばサイプラスをばトルコ人に遣はされませ。笑うてさへゐりや奪られんも同然でございませうから。御訓言も、それを拜承つて他に何の關係なく、只慰藉だけを頂戴の出来る手合には結構でございませうが、心に痛みがあつて、乏しい忍耐から借物をせにやならん者は、訓言を拜承るのは餘計な負擔でございませう。訓言は甘くもあり、苦くもあつて兩様に利くものでございませうよ。が、要するに、

語は語です、傷を負うた心臓が耳から薬を注ぎ込まれた薬で治つた例はございません。どうか御用向をお進め下さい。

これにてオセローも席に著く。と公爵はじめ元老一同改めて議事に取りかゝる。

公爵

(オセローに)トルコが大軍をひきゐてサイプラス島に向うてゐる。オセロー、彼地の要害はあんたが最も善う心得とる筈ぢや。豫てあそこには老功な假總督を置いぢやあるが、無上の力を有する輿論はあんたでなくちや安心出来んというてをる。それゆゑ、甚だお氣の毒ぢやが、あんたの輝かしい新幸運を、殺風景な征討に従事して、當分、暗いものにして置いて貰はにやならん。

オセロ

諸閣下に申し上げます、酷い習慣に慣らされました手前には、石や鋼を枕とする戦場が三度撰の綿毛床なのでございます。困難な

事と聞くと、直ぐさま飛び込んで参りたいのが持前でございますから、土耳古人征伐の役目は必ず相勤めます。それにつきまして、折入つて請願仕りますが、どうか、妻をば、身分相当にお取扱ひ下されますやうに、身分相應な住所、扶持、便宜、及び附人を下しおかれませうやうに願ひます。

公爵

父に預けてはどうぢやな？

ブラバ

其儀は御辭退申します。

オセロ

いや、手前におきまして。

デステ

わたくしとても。父の目の前にをりまして厭アな思ひをさせたくございません。お慈悲ぶかい公爵さま、不束なわたくしが只今申し上げます事をお聴き下さいまして、どうぞ此お願ひをお許し下さいませうやうに。

公爵

デズデモーナ、其願ひとは？

デステ

私がムーアどのを戀ひ慕うて一しよに暮したう思うてをります事は、家をも身をも振捨て、何事をも運命に任せようと致しました私の大膽な振舞ひで世間に知れ渡りました、それは夫の役柄をも善う心得てゐてした事でございます。私はオセロどのの心をば相貌と詠めて、其徳と勇氣とへ魂ひをも運命をも獻げました。ですから、皆様にお願ひ申します、夫が戰場へ参りますのに、私が浮れ胡蝶かなんぞのやうに取残されてをりましたは、妻となつた效もなく、久しい間の留守居をば嘸かし辛う思ひませう。何一つ奉仕することも出来ませず、其上、戀しい人に別れて、獨りで留守居をするのは、迎も辛い事だらうと存じます。一しよに行かせて下さいませ。

オセロ

彼女の願ひをお聴き届け下さいませやう。天も御照覽下され、決して情慾の満足を欲してお願ひをするのではございません、……血氣時代はもう過ぎました、手前の慾ははや歇んでをります……情慾の爲や自分勝手手の爲に申すのではございません、彼女の望みを十分に遂げさせたいばかりに申すのであります。彼女が一しよにゐたら、重大な御用向を忽諸にしはせぬかなどと思し召して下されますな。翼の生えたキューピッドの悪戯で、萬一にも手前の兩眼が淫はしう鈍り、癡け遊びをして、御用向を汚すやうな事がございましたら、手前の兇は下賤女の用ふる鍋ともなるがえい、ありとあらゆる汚名や悪名が此素頭に落ち降るがえい！

公爵
はて、留めおくとともに伴ひ行くとも、あなたの心任せになさるがえい。當用は火急を要する。早速出發して下さい。

議官甲

今夜中に御出發なさらんけりやなりますまいぞ。

オセロ

承知いたしました。

公爵

(議官らに) 明朝の九時に又會合しませう。オセロ、たれか一人部下の者をお残しなさい、辭令書は後から送ることしよう、あなたの職權、其他、緊要な事も其れと同時に。

オセロ

では、旗手を残しておきます。正直な忠實な者でございます。妻の事も彼れに託しておきます。何品にもあれ、必要な品々は彼れにお命じあつてお送り下されますやう。

公爵

よろしい。……(元老、其他に) 御機嫌よう。……(ブラバンショーに) ブラバンショーどの、徳さへあれば、そこに自から美しさが備はる。あなたの婿どのの決して醜い男ぢやない。

議官甲

さやうなら、ムーアどの。折角、デズデモーナどのをおいたはり

なさい。

ブラバ いや、ムーアどの、氣を附けて見てみなさい、目があるなら。父を欺した女ぢや、お手前をも欺しかねまいぞ。

公爵、議官、ブラバンシヨ、役人ら皆入る。

オセロ

(ブラバンシヨの後ろ姿へ) 彼女が貞節は此命を賭けても……イアーゴー、デズデモーナは君に頼んでおかんけりやならん。君の細君を付き添はせて、都合の付き次第、伴れて来て貰ひたい。……さ、デズデモーナどの、愛を語ったり、家事、俗事を語ったりする時間は、たつたもう一時程しかない。時刻が来りや直ぐ往かんけりやならん。

オセロはデズデモーナを伴つて入る。

ロダリ

(落膽し切つて) イアーゴー……

イアゴ

(わざと呆惚て) え、何でございますね？

ロダリ

どうしたらいゝだらう？

イアゴ

はて、寢床に往つて眠たらいゝだらう。

ロダリ

すぐにも身を投げて死んぢまひたい。

イアゴ

そんな事をすりや、君との關係もけふかぎりだよ。はて、馬鹿な人

だ！

ロダリ

生きてるのが苦痛なのに、生きてるのは馬鹿らしい。死神の外に

イアゴ

良い醫者のない時分にや、死ぬより外に處方書はない。

馬鹿な事を！ 僕ア二十八年間も世間で者を觀て來たんだが、利害の見分が出来るやうになつてから、見受けた人間で、うぬを可愛がる法を本當に心得てゐる奴ア一人も無い。俺なら、賤少女に惚れて、其爲に身を投げるなんぞと言ふよりも前に、いつそ人間を止め

て狒々にでもなッちまはア。

ロダリ

だつて、どうしたら可いだらう？　こんなに未練なのは恥辱だとは思ふけれど、僕にやそれを忍耐し得る徳が無い。

イアゴ

徳だ！　へッ、何と馬鹿な！　無花果の割目だねえ、かうなるのも、あゝなるのも、皆人間様御自身のお細工なんだよ。人間の肉體は花畑で、精神は其（手入れをする）庭師なんだ。蕁麻を植ゑようと、蒿苳を蒔かうと、ヒソップを生して麝香草を引抜かうと、たつた一種だけにしておかうと、いろんなものをゴツちやに植ゑ込まうと、うツちやつといて瘦地にしようよと、精出して肥料をくれようよと、はて、善くするのも悪くするのも、吾徒の勝手なんだ。人間の一生を天秤だとする、若し情慾の皿だけあつて、それに釣り合ふ理性の秤皿て者が無かつたら、終始、卑劣な情慾て奴の爲に愚劣な事

ばかり爲出來すんだらうが、御方便に、理性て者があるんで、荒れ狂ふ情だの、突き刺すやうな肉慾だの、悍馬のやうな淫亂根性だのを冷却させることが出来る。君が戀と呼んでるのも、其奴の斷片か、小條だらう。

ロダリ

そんなんぢやない、決して。

イアゴ

いや、血の氣のせぬだよ、だらけた根性がさせるんだよ。さ、さ、しつかりしたまへ。身を投げるッ！　小猫や盲狗ぢやあるまいし。ねえ、一旦、信友になると言つた以上、俺は、斷絶れッこの無い錠綱で以て自分と君とを繋ぎ合はしてしまつたんだ、さうして今が一等君の爲に眞實を盡すべき時だらうと思ふ。……ねえ、金の才覺をして、さうして戰場へ従いて來たまへ。偽髭で面を變へてね……いゝかい、金の才覺をして。デズデモイナがいつまでもあのムー

アを、また彼奴もあの女をいつまでも……金を衣囊へ入れてね……可愛がるなんてことあるまじき事だ。發端が急激だったんだから、きつとそれに相應した破綻が起るだらう。……衣囊に金を忘れちゃいかんよ。ムーア人て者ア、本來氣の變り易い者だ。……衣囊に金をだぜ、いゝかい？……今は甘果とも甘がつて賞翫してる者が忽ち苦果ほどに苦い物になるだらう。女もきつと若いのへ心を移す。肉が飽饜すりや、見ちがへたことに心附く、きつと取易へたくなる、きつと。だから、金を衣囊へ入れてね。若しどうしても地獄へ墮ちたけりやだ、溺死よりやアもつと氣の利いた死方があらうてもんだ。……出来るだけ金をこしらへてね。宿なしの野蠻人と狡猾なエニス女が殊勝げに取結んだあの脆い契約、あれが、俺と惡魔連の智慧で以て斷絶り得られるものなら、大丈夫、女は君のぢやないか？

有にして見せるよ。だから、金を才覺すること。馬鹿な！身を投げるなんぞア七里けつぱい！女を手にも入れ得ないで土左衛門になる位ぬなら、望みを遂げた上で絞罪になつたはうがいゝだらうぢやないか？

ロタリ

イアゴ

きつと力になつてくれるんですか、君の言ふ通りにすりや？
大丈夫。……さゝ、金をこしらへたり。……何度も言つたことだが、もう一度言ふ、俺はムーアが憎いんだ。それにやア深い理由がある。君だつてさうだ。だから、お互ひに協力して復讐をしようよ。間男になることが出来りや、君はお楽しみだし、俺にも慰みになる。「時」の胎内にや種々な事件が孕まれてゐて、早晚、それが生れる。進軍ッ！……さ、金の準備をしてね。明朝また改めて話さう。さよなら。

ロダリ 何處で會ふんだい、明朝は？

イアゴ 俺の宿で。

ロダリ 朝早く往くよ。

イアゴ さ、さ。さよなら。……おい、一寸、ロダリーゴー！

ロダリ え？

イアゴ 土左は止だぜ、いゝかい？

ロダリ 氣が變つた、地面の有ったけを賣る積りだ。

ロダリーゴー入る。とイアゴは瞑想に耽る。

イアゴ かうして何時もあの阿呆めを財囊代りにするんだ。はて、慰樂に

も利得にもならんのに、あんな愚物を相手に暇潰しをするやうな

ら、長年磨いて來た智慧の看板に泥を塗るも同然だ。……小癩に

障るムーアめ、奴は俺の床の中で俺の役をしをつたといふ噂がある。

諛か實か知らんが、それを事實と見做して返報をしてくれよう。

奴め俺を信用してゐるやがるから、一段爲事が爲易い。……キャツシ

オーめは好い男子だ……かうツと……彼奴の位置を奪つて、一舉

兩得の悪だくみを思ふ存分に爲果せる……はてな、はてな……

かうツと……程經てからオセローに讒言をしてくれる、彼奴は奴

の妻と慇懃にしてゐると。彼奴は男振といひ、柔和な氣質といひ、

嫌疑を受け易い女たらした。ムーアめは磊落な、正直な性質、外

面ばかりの忠義をも眞實だと思ふ男だ、驢馬同様に鼻頭で容易く引

廻すことが出来る。……しめた。生れた。ところで、此怪物を

彌々明るみへ持ち出すの、ア惡魔と夜に受持つて貰はにやならん。

イアゴも入る。

第二幕

第一場 サイプラス島の港。埠頭。

假總督のモンターノーが二紳士と出る。二紳士は岬の端へ登って往つて海上の模様を視察する。モンターノーも海の方を見詰めてゐる。けふにも攻めて来る筈であったトルコの艦隊が、昨夜來の暴風で、どうなつたかと懸念して見張つてゐるのである。

モンタ

何か見えますか、海上に、岬から？

紳の一

何も見えません。浪がすさまじく荒れてゐます。空と海との間に帆影一つ見えません。

モンタ

陸は大荒れでしたからねえ、あんなに風の爲に城壁が震動したこと

は曾て無かつたと思ひますよ。海上も同様だつたとすると、如何な櫂の肋ッ骨だつて、臍穴に附著いちやゐまいて。何様な報知が來るか知らん？

紳の二

トルコの艦隊が散々離々になつたて報知が來ませう。つい、此泡立つてる岸頭に只立つて御覽なさいまし、逆巻く大浪は空を拍つてるやうに見えます、風に煽られた高浪は凄じい鬣尾を揮り立て、あの火のやうな小熊星へ水を投げ懸けくして、居据りの北斗星の守衛役を消しッちまひさうです。こんなに海の荒れるのア曾ぞ見たことありません。

モンタ

何處かの港へ避難したとすりヤアだが、でなきや、トルコの艦隊はきツと沈没しッちまつたに相違ない。持ちこたへる筈ア無い。

紳士の三出る。

紳の三

(昂奮しつゝ) 新聞ですく！ 軍はもう終りました。此大暴風でトルコの奴らアさんぐに叩きみじかれましたので、奴等の計畫は中止です。その無慚な難破の實際をゼニスから来たわが軍艦が見届けたんです。

モンタ

えッ！ それは事實ですか？

紳の三

もう其船が入港つてゐます、ゼローネサ號なんです、ムーア將軍オセローどの、副官マイケーエル・キャッシオーといふ仁はもう既に上陸しました。ムーアどのはまだ海上だといふ事ですが、何でも、此サイプラスの全權を委任されて参られたやうに承はりました。

モンタ

それア重疊です。彼の人は總督には最も適任です。

紳の三

ですが、其キャッシオーて仁は、トルコの敗滅したのを悦びながら、愉快がると同時に、ムーアどの、事を氣づかつて、頻りに安全を祈

つてをられます、暴風の爲に本船と離れぐに成っちゃったんださうですから。

モンタ

どうか無事であらせたいもんだ。わしは彼の人の部下になつてゐた事があつたが、あの人ア全く立派な武人だ。……おい、海岸へ行かうよ！ 入港する船を見ながら、オセローどの、お待受けをしよう、海と空が一つに見えるほどまで向うを見詰めて。

紳の三

ぢや、参りませう、さ、さ。今にも別の船が入港しさうです。

キャッシオーが出る。

キャシ

(モンターノに) 感謝いたします、此要衝地の勇士モンターノどの、ムーアを御稱讃下さるはかたじけない！ ……あゝ、天よ、どうぞ彼れをして風波の難をのがれしめたまへ、……わたしは危険な海上で彼れを見失つてしまつたのです。

モンタ

乗つてをられた船は堅固なのですか？

キャシ

船は岩壘ですし、水夫ども、夙に認められた腕達者なものですから、決して絶望はいたしません、大丈夫であらうとは思つてゐますが：

此時、奥で「船だくくく！」と叫ぶ聲がする。と紳士の

四が出る。

キャシ

や、あの騒ぎは？

紳の四

市は全空です、あらゆる階級の者が、海岸へ出まして、船だくく！と呼んでゐます。

キャシ

そりゃきつと總督の船でせう。

奥で大砲の音。

紳の二

禮砲を放しますから、身方に相違ないでせう。

キャシ

どうか、何人が著されましたか、確めて来て戴きたいものです。

紳の二

承知しました。

紳士の二入る。

モンタ

時に、副官どの、將軍は御結婚なすつたんですか？

キャシ

さ、迎も御良縁なんです、傳奇や小説にも無いやうな立派な婦人を迎へられました、詩人連も美め立てるに窮しさうな、持つて生れた美質だけで畫工をも草臥れさせさうな美人ですよ。

紳士の二出る。

紳の二

どうでした！ 入港したのは誰れでした？ 將軍の旗手のイアーゴとかいふ人です。

キャシ

幸福と速く都合よく著きましたねえ。暴颯も、荒海も、吠え立てる風も、何の罪も無い船腹の邪魔をしようとして埋伏をしてゐる二

心者の暗礁や浅洲も、美の感覺があるんでせう、持前の殘忍を中止にして、あの天女のやうなデズデモーナさんを安全に通過させたいですな。

モンタ

デズデモーナさんとは？

キャシ

今お話した御大將の御大將ともいふべき奥さんです、勇敢なイアールが警護して参つたのです。思ったよりも七日ほど早く著きました。……大デューヴ神よ、どうか、オセローをお護り下されまして、強大な御息で以て將軍の帆をふくらませて、彼れの大船をして此港を祝福せしめたまへ、デズデモーナの腕で息ぜわしく愛の喘ぎをなし、吾々一同の沈んだ勇氣を振り起し、此サイプラス全島に慰安を齎らさしめたまへ。

デズデモーナを先きに、イミリーヤ、イアールゴ、假裝して

ゐるロダリトゴ、其他大勢の従者らが出る。

あゝ、御覽なさい、船の寶物が上陸しましたぞ！……サイプラスの諸君、奥方です、お下に……。……(デズデモーナに)奥さま、おめでたうございます！ 天の御恵み、お前にも、お後にも、どの方面にも、遍くあれ！

デズデ

ありがたう、キャッシーさん。で、夫の消息は御存じですか？

キャシ

まだお著きになりません。ですが、キッと御無事で、程なくお著きだらうと存じます。

デズデ

おゝ、でもわたし……。……どうして別れ々々になったのです？

キャシ

あの怖ろしい風波の爲に……。……

此時、奥で、又「船だく！」と叫ぶ。

や！ 船が著いたやうです。

奥で禮砲の音。

紳の二 砦から挨拶をしてゐます。今度のも身方の船です。
キヤシ 確めて来て下され。

紳士の二は入る。

(イアゴーに)旗手どの、ようこそ。(イミリーヤに)……ようこそ、
お内儀。(と抱擁して)……イアゴーどの、かういふ禮法は手前の
教はつた禮法です、お氣にお障へなさるな。

とイミリーヤに接吻する。

イアゴ (磊落に)手前に對して舌が働く程に(饒舌なほどに)其唇が(貴君に
對しても)働いたら、いや、もう澤山だとおいひなさるだらう。
デズデ まア、あんなことを、口数は尠い女だのに。

イアゴ いや、どう仕りました。始終しゃべりつゞけです、手前が、眠くつ

てならない時だつてもです。はて、奥さまの前ぢやア、成るだけ舌
を胸中へ包み込んで、ロシ中で小言いてもをりませうがね。
イミリ 其様な事を言はれる覺えはありませんよ。

イアゴ どツこい、おぬシア外へ出りや晝に晝いた女だし、客の間ぢや鈴
の音よろしくだが、臺所ぢや野良猫だ、悪だくみをしてゐても菩薩
顔をしてゐるが、腹を立つたりといふと、夜叉そのけだ、家事を
させりや懶惰者だが、床へ入りや好い稼ぎ人だ……

デズデ まア、何て口ぎたない!

イアゴ いや、眞實の事です、でなきや、手前はトルコ人でさ。……おぬし
ア起きりや遊ぶ、臥りや働くて女だ。

イミリ わたしや(死んでも)讚は貴郎には書いて貰ひますまいよ。

イアゴ さうさ、書かせないはうがよからう。

此間、デズデモーナは夫オセローの未著を頻りに心配してゐるのだが、それを人々に氣取られるのを流石に氣にする所から、それを紛らすために、わざとイアーゴへ話しかける。

デズデ ねえ、若しわたしの讚をお書きだとしたら、何様な風に書いてくれますか？

イアゴ お、奥さま、そいつア御免を蒙りませう、手前は悪口一方の男ですから。

デズデ さ、ま、さういはないで。……(かういひながら懸念さうに、キャツシオに) 誰れか港のはうへ行きましたか？

キャシ はい、参りました。

デズデ (傍白) 面白くはないけれど、わざと面白さうにして氣を紛らしませう。……さ、どんな風の讚をしてくれますの。



オセロー、デズデモーナ、イアーゴ、キャツシオ、其他。 第二幕 第一場

イアゴ

只今考へ中です。が、其名案めが、まるで荒布へ繭ッて風に、此頭

へ粘著きやアがつて、脳味噌ぐるみ引摺り出しさうな鹽梅式です。

いや、どうやら詩神どんが産氣づいて來ました。……ま、こんな

風なのが産れました。……「若し女が麗でさうして聰明でありや、

美と才とがありや、一方は役に立つ、もう一方はそれを役に立てる。」

(才が美を利用します。)

デステ

巧い讚なのね。……ぢや、若し穢くツて聰明であつたら？

イアゴ

さア、「穢くツても聰明でさへありや、早晚其穢さに相應した或癡者
を見附けませう。」

デステ

だんくゝわるくなるのね。

イミリ

ぢや、麗でさうして阿呆であつたら？ (美人だが低能だつたら？)

イアゴ

はて、「麗な女が阿呆で果てよう筈はない、淫行をすりや其お底で、

嗣子を産むことが出来るからよ。」

デステ

そんなのは居酒屋で阿呆共を笑はせる阿呆らしい無理故事附け。

ぢや、どんなみじめな讚をおしです、若し其女が穢くつてそして阿呆であつたら？

イアゴ

「どんなに穢くつて、おまけに阿呆でありませうとも、美しくても聰明な連中がする例の穢らしい悪戯をせないものアありやしません。」

デステ

あら、ま、何て物知らずでせう、あんたは！ 一等悪いのをば一等善いものゝやうにお言ひだ。だが、如何な讚をおしです、眞實に立派な婦人で、其持つて生れた美德を楯に、見事わしを悪く言はれるものなら、さ、言つて見よ、といふやうな女があつたら？

イアゴ

さア、「美しくつて高ぶりもせず、辯もいゝが姦しく喋説りもせず、

金に事は缺かないのだが、華美な好みもせず、其慾は今でも遂げられると言つてゐながら、慾に克ち、返報をする好い機會が來ても、怒りをも、怨みをも忍ぶことの出来る女、鮭の尻尾を大口魚の頭と取換つこなんかにやせない程度の分別はあるのだが、其分別を曾ぞまだ鼻ツ先きに見せない女、尾いて來る送り狼共を曾ぞ振返つても見もせん女、若し其様な女がありや、其女は……」

デステ

其女はどうなの？

イアゴ

「阿呆ツ子供に乳を飲せたり、小使帳を記けたりするにやア相應」で

デステ

おゝ、ま何て不具な力のない結論だらう！ イミーリヤ、お前の御亭主だけれど、此人の言ふことなんか眞に受けちゃアいけないよ。……ねえ、キャッショールさん、ほんとに無作法な、卑陋なことばか

りいふ人ぢやなくッて？

キャシ (デズデモーナの前へ進んで) 無遠慮はあの仁の持前なのです。學問よりも戦術に長じてゐるんですから、それをお認めなさるべきです。

といひつゝ、デズデモーナの手を取つて、キッスの禮を行ひ、
尙ほ何か小聲で挨拶をしてゐる。

イアゴ

(二人の様子を獨り立離れて、じろく〜と見てゐて、傍白)へッ手を握りやアがる。……さうく、耳こすりけっこう。……さういふ小ぢやい蜘蛛の巣で、今にキャッシオーといふ大きな蠅を取捉へてくれる。……さうく、にや〜笑つたり。今に其馬鹿慇懃が汝の首ッ械になるぞよ。御尤も、全く其通り。若し其様な小戯で副官職が免職になるやうなら、さう度々三指を舐めんはうが可かつたらうぜ。

といふ口の下に又ぞろ風流士の眞似が始りさうだ。……ようよう！ 舐め方上等！ 見事々々！ 全く其通り。……おや、又かい脣へ指を三本？ そいつが灌腸管であつたらよからう！

喇叭の聲と共に大砲の音。

キャシ

ムーアどのだ、あの喇叭に覚えがある。

デズデ

此方から往つて出迎へませう。

キャシ

あ、もうお見えになりました。

オセローが従兵大勢を伴れてさすがに昂奮した顔色で出る。
とデズデモーナが駈けよつて出迎へる。

オセロ

おゝ、わしの女軍人どの！
とデズデモーナを抱擁する。

デズデ

おゝ、なつかしいオセローどの！

オセロ

予よりも先きに著いてゐなさらうとは、豫期せなんだゝけに、それと同程度に喜ばしい。いや、ほんとに嬉しい！あらしの後に毎も斯んな和が来るんなら、風も吹け、死人が驚いて起きるほどにも！船も悩みをれ、オリムポスのやうな高浪に震り上げられて、それから又、天から奈落へ落ちるやう潜りをれ！……今死んだなら此上も無い幸福ぢやらう、これ以上の悦びは豫期しがたい運命めが又と持つて来ようとも思はれんから。

デズデ

まア、縁起でもないことを！……神さま、二人の愛と悦びとは月日と共に積りまするやうに！

オセロ

神々よ、どうか然うあらしめられませ！……此嬉しさは迎も口では言はれん、此處にそれが（と胸に手をあて）支へてゐる。餘り喜

イアゴ

びが多過るんぢや。斯う、斯う。（と情熱的にキッスして）これが二人の身の最大不和であるやうに！

（此様子を冷眼に見やうて、傍白）おゝ、今は大分好い調子だ。が、見てろ、今に俺が其音締をば緩めてくれる、此誠實な俺がよ。

オセロ

さ、さ、城内へ行かう。……諸君よ、お聞きなさい、戦争はもう終りましたぞ、トルコ人は悉く溺死しました。……や、此島の舊知己どの、御機嫌よう！……（デズデモーナに）なア、デズデモーナどの、あんたもきつと此サイプラスぢや歓迎して貰はれるであらう、予も非常に皆さんに可愛がられた。おゝ、デズデモーナどの、つい取止めもなく喋説り過した、餘り嬉しいので惚けたんぢや。……：イアゴ、御大儀ぢやが君は港へ往つて予の荷物を揚げさせて、それから船長を砦へ案内してください。彼れは立派な男ぢや、どう

か丁寧ていねいに扱あつかうてくれ。……さ、さ、デズデモーナ、改めてあらた（と又抱擁あづかして）先まづ、目出めでたう逢あうた、此このサイプラスで。

とデズデモーナの手を取とって先まきに立たち、皆々みなを従したがへて入はいる。

イアーゴとロダリーゴだけ残のこる。

イアゴ

（モンターノに）又港またみなとでお目めにかゝりませう。……（ロダリーゴを見返みかへって、小聲こゑで）こゝへお出いでなさい。……若もし君きみに勇氣ゆうきがあるなら……戀こひをすると、卑劣ひれつな男をとこも性來せいらい以上の高尙かうじやう（勇敢ゆうかん）な氣質きしつになるとかいふが……それが本當ほんたうなら、ねえ、聽ききたまへ。副官ふくくわんは今夜こんや守衛所しゆゑいしよで夜警やけいをする。……そこで、先まづ言いつておかんけりやならんが……デズデモーナは彼奴あいつに惚ほれてゐる。

ロダリ

あの男をとこに！ 其様そのんな事があらう筈はずはない！

イアゴ

指ゆびを斯かう當あてゝ、（生意氣しやうぎな事ことなんか言いはないで）謹つしんで聽きいたがいゝ

よ。ねえ、あの女をんながムーアに惚ほれた最初しよつはなが如何いかに無む法はふであつたか
てことを考かんがへて見みたまへ。虚喝ほらッ話はなしや架空くわくう談だんを聽きくが面白おもしろかつた
からといふだけだらうぢやないか？ 女をんながいつまでも虚喝ほらッ話はなしに惚ほ
れてをられると思おもふかい？ よもや君きみはそんな馬鹿ばかなことア思おもつちや
ぬまい。目放樂めはうらくてもものが無なくツちやならんよ。鬼おにッ面つらを見てゐたの
ぢや何なんの慰樂なぐさみにもならなからう？ 慰なぐさみ事ことが濟すんで血ちが鈍にぶりはじめ
ると、其飽饜そのたんのうした心こゝろを煽あかつて生々いきくした情慾じやうよくを起おこすにやア是非ぜひとも
可愛かはいらしい面附つらつきとか、似につこらしい年輩ねんはいとか、好いい風采やうすとかゞ入用いりよう
なんだが、それがムーアにやア一ひとつも無い。さア、さういふ入用いりよう
物が無いとすると、そこは優やさしい女氣をんなぎだ、一いぱい食くはされたことに氣き
が附ついて、胸むねをわるくする、ムーアめを慄毛おそげをふるつて嫌いやがるやうに
なる、天性てんせいに教をしへられて、是非ぜひとも二かの代かりの男をとこを求もとめないぢやア

おかない。そこでだ、果してさうだとすると……こりやもう當然な、明白なことなんだが……さて、其お見出しにあづからうてイ幸福者は、あのキャッショーの外にあらう筈はない。奴は大の浮氣者だ、猥な、極内の慾を遂げよう爲にこそ禮儀だの、深切だのを粧ひもするが、良心なんかは氣も無い奴だ。はて、彼奴の外に誰れがある？ あらう筈はない。獯い、狡猾い野郎、機會を覘つてばかりゐる野郎、好い機會が無きや手細工で以て、偽物を製り出さうて横著者だ。おまけに、彼奴、面は好し、年は若し、世間知らずの浮氣女に好かれる資格は何一つ不足してをらん極道者なんだ。さうして女めがもう彼奴に目を著けたんだ。予にやどうも信ぜられない。あの婦人は神聖な美德に富んでゐるもの。

ロダリ

イアゴ

神聖な無花果の割目が聞いて呆れる！ あの女が飲む酒だつて葡萄から出來てるよ。彼女が神聖だつたらムアにや惚れなかつたらう。神聖な肉饅頭が聞いて呆れる！ え、彼奴の掌を彼女が弄物にするのを見なかつたかい？ あれに氣が附かなかつたのか？

ロダリ

イアゴ

うん、見たよ。見たけれど、ありや禮儀だよ。何の、淫亂根性からだよ。醜穢い猥褻なお芝居の始る其序開きの知らせなんだ。唇と唇とが接近したらう、息が抱き合ふ程に。無論、醜穢しい料簡がさすんだ！ あの馴々しさが先陣となつて其後から（邪淫の）御本陣が押して來る、大將と大將の取組合ひが始る。ペック！……ま、ともかくもおれに任せたまへ、君をエニスから伴れて來た俺だ。（わるく計らふ筈はない。）ねえ、今夜君も夜警をしたまへ、指圖は俺がするから。キャッショーめは君を知ら

ない。俺はすぐ近くに居ることにしよう。何とかしてキャッショーを怒らせるんだ、大聲で話をするなり、彼奴の悪口をいふなり、何でも關はん、臨機應變にやらかすんだ。

ロダリ なるほど。それで？

イアゴ ところでだ、彼奴ア短氣で腹立ッぽいから、或ひは君を打つかも知れない、打たすやうに持ち掛けるがい。それを種に俺がサイプラスの奴等に大騒動を起させる。キャッショーめを免職させなけりや如何しても元の鞆に収まらないやうにして見せる。すれば君の望みは手短に遂げられる、俺が巧い段取を工夫しようから。それで以て邪魔物が一等都合よく除かれるんだ、さうせんけりや、逆も吾徒の希望は遂げられない。

ロダリ やつて見よう、君が機會さへ與へてくれりやア。

イアゴ 大丈夫。若で又會ふことにしよう、俺は大將の荷物を取りに往つて

來にやならん。さよなら。

ロダリ さよなら。

ロダリーゴー入る。

イアゴ キャッショーめがああ女に惚れてるて事は確實だらうと思ふ、あの女が彼奴に惚れてるてことも、ま、有りさうなこつた。ムーアめは、氣にくはん奴ぢやアあるが、誠實な、情の深い、立派な人物なんだ、だから、デズデモーナに取つちや最も深切な好い夫でもあるに相違ない。ところでだ、俺もあの女に氣がある、淫亂心ばかりぢやない……或はそんな罪を犯すまいものでもないが……どっちかといや、返報してやりたいからだ、あの多淫なムーアめ、どうやら俺の夜被ン中へ潜り込みやアがったらしい。さう思ふと、毒藥で臟腑を引



ツ搔き廻されるやうだ、妻と妻とを交換へて彼奴と五分々々になるまでぢやア、どうしても腹が癒ん、若しそれが出来そこなつたら、如何な智慧分別を以てしても迎も療治の出来んやうな邪推根性を起させてくれよう。それにや、あのゼニスの瘦狗、奴の焦慮り過ぎるのを操つて使喚けることが出来さへすりやア、キャツシオーめはこつちのものだ、さんぐにムーアめに讒言してくれよう。……といふのは彼奴もどうやら俺の寝帽子をかぶりやアがたらしいから。(妻と不義をしてゐるらしいから)……さうしてムーアめに禮を言はせて、俺を可愛がらせ、褒美まで與れさせる、大馬鹿扱ひにして其安心を失はせ、氣が狂ふほど苦しませてやる其報酬に……(手を額に當て)こゝにあるんだ、が、まだ雑然してゐる。悪計の本體はいざとならんけりや解らない。

といひくゝイアゴー入る。

第二場 街上。

傳令の役人が布告文を持って出る。と市民大勢従いて出る。

傳令

オセロー大將軍の御意であります、只今トルコ艦隊が全滅したといふ注進が参りました。でありますから、御めいゝに勝軍をお祝ひ下さい。舞蹈なり、花火なり、遊戯、宴樂、御めいゝのお心任せにお催し下さい。今夕は右吉左右の外に、將軍が御新婚の御披露をも兼ねて行はせられるのであります。以上、將軍の御申し渡しであります。賄所は何れも開放してあります、五時から十一時の鐘の鳴るまでは飲食ともに御隨意であります。……天よ、サイプラスの島の上にもオセロー將軍の御身上にも幸福を下したま

へー
皆々入る。

第三場 城内の廣間。

オセロ、デズデモーナ、キャッショー（名はマイケーエル）
及び侍者役ら出る。

オセロ　マイケーエル、今夜の取締りは貴君に頼みますぞ。お互ひに不體裁に及ばんうちに止めるがえい、浮かれて程を過しちやならん。

キャシ　イアーゴーが萬事心得をります。が、手前に於ても特に見張ることに致しまする。

オセロ　イアーゴー、ありや誠實な男ぢや。マイケーエル、ぢや、機嫌よう、明日また早朝に面談しよう。……（デズデモーナに）さ、デズデモ

ナどの、買物は濟んだが、それが二人の間の收穫となるのはこれからぢや。……ぢや、きげんよう。

キャッショーだけを殘して皆々入る。
イアーゴーが出る。

キャシ　よろこそ、イアーゴー。お互ひに夜警をせにやならんよ。

イアゴ　まだ時間ぢやないよ。副官。まだ十時前だ。將軍は、あのデズデモーナどんが可愛いので、斯んなに早く引ッ込んでしまはれたんだ。が、それも尤もだ、無理はない。まだ一晩と濃厚り楽しんぢやぬないんだからなア。デョーヴだつて情婦にしたがりさうな美人だ、ありや。

キャシ　全く絶群の御婦人であらつしやる。

イアゴ　おまけに、保證だ、中々手管もありさうだね。

キヤシ いかにも、迎も若々しくって物優しい仁だ。

イアゴ どうだ、あの眼は！ 男を挑發てる陣太鼓ともいふべき目附だ。

キヤシ 愛嬌のある眼だ、けれども飽迄も温淑な目だと僕ア思ふね。

イアゴ あれで物を言つたとなりや、それこそ男の心は引ッ搔き廻される、まるで非常鐘よろしくだ。

キヤシ 實際、圓滿な婦人です。

イアゴ ま、御夫婦お目出たくおしげりなされませだ！……おい、副官、

こゝに酒を一壘持つて来たんだ。それからねえ、サイプラスの壯漢

連が一組黒將軍の爲に祝盃を擧げようてつて、つい戶外まで来てゐ

るんだ。

キヤシ いや、イアゴ君、今夜は御免だ……僕ア酒と來ちや不幸にも全

くの弱蟲だ。何か外に款待の法をば工夫して貰ひたいもんだねえ。

イアゴ だつて、奴等はわれ々の親友なんだよ。一盃ぐらゐいゝだらう。

君の代りに僕が飲むことにしよう。

キヤシ 今夜はたつた一盃飲んだきりだ、而も巧く水を割つといたんだ、け

れども、御覽なさい（と顔や額に手を當てて）此通りだ。かういふ不

幸な弱點があるんだから、此上迎も冒険する勇氣はない。

イアゴ これさ〜！ 今夜は祝宴だらうぢやないか？ 壯漢連が、是非ッ

て、望んでるんだよ。

キヤシ 其人達は何處にゐるんです？

イアゴ ついあの戸口にゐる。ねえ、呼び入れてやつて下さいよ。

キヤシ よろしい。……（獨白）さうしたくはないんだが。

キヤッシオー入る。

イアゴ たつた一盃喫はせさへすりやア、前に飲んでゐるんだから、彼奴め、

若いお主婦の飼犬のやうに怒りッぽくなくなって、喧嘩ッ早くならんだらう。ところでだ、あの病的な、色氣狂ひのロダリーゴ野郎、あの阿呆めも、今夜はデズデモーナの爲にといつて、一升入りで祝盃をあほりやアがった。彼奴も夜警をする。それから、サイプラスの三人の壯い漢、おそろしく氣位の高いやつら、命にかけても武人の名譽を重じようといふ此島の精英共、あいつらにも俺が満々と飲ませて酔ッぱらはせておいた。彼奴らも夜警をする。そこで、さういふ酔漢どもの中へあのキャッシオーを投込む、さうすりや、島の者を怒らせるやうな事が自然に起る。……

此時、奥で多勢の笑ひ聲が聞える。

や、来たやうだ。……空想通りに巧く行きや、風もよし、潮時もし、俺の船は得手に帆だ。

キャッシオー又出る。つゞいて假總督モンターノー及び他の紳士が大勢出る。

給仕が酒壺を持って出る。

キャシ

いや、もう眞ッ平です。大きなやつで飲まされたんですから。

モンタ

いや、ほんの小さいのです。實際、三合とは入らないのです。

イアゴ

(わざと浮かれて) くら、酒だく！

(歌ふ) 鳴らせ金屬盃を、チリカン、チリカン。

鳴らせ、も一つ、金屬盃を、チリカン。

軍人ぢやて人間でござる、

人の一生は掌ほどぢやよ、

ならば飲まんせ軍人！

給仕！ 酒だく！

此間に、キャッショーに酒を注ぐ。
キャシ (もう大ぶ呂律が怪しくなりかけて) いや、どうも、すっぱらしい歌だね

え。

イアゴ

僕アこれをイギリスで習ったんだ。イギリス人は實に飲むことにか
けちやア拔群けてゐる。デンマーク人もチャーマン人も布袋ッ腹のオ
ランダ人だつて……さア〜、飲んだり〜！……イギリス人に
比べると、零だ。

キャシ

イギリス人は飲むことがそれほど老練かね？

イアゴ

はて、デンマーク人なんぞを盛り潰すのAお茶の子だ。チャーマン
人を倒すにも手間暇は要らずよ、オランダ人なんざア、まだ次ぎの
一升入りへ注がれないうちに小間物店を出しッちまふ。

キャシ

(だん〜上機嫌になつて) 將軍の御健康を祝します！

モンタ 副官どの、手前がお相手をしますぞ。 正當に、立派に。

イアゴ あゝ、イギリスは愉快な國だ！

(歌ふ) 王のスチーブンは立派な殿さま、

けれどもお筒袴がたつた三兩。

それでも百文がた高いというて、

仕立係りを阿呆とお叱り。

お歴々でもそのよなものぢやに、

おぬしや身分も低いぢやないか？

國は驕奢で滅ぶと申す、

古い外套被て濟しや。

さア〜、酒だ〜！

キャシ こりやいゝ、前のよりも更に又上等な歌だねえ。

イアゴ もう一度歌はうかね？

キヤシ (ふっと我れに返って) いや〜。そんな事をする輩は、己れの位置、

身分を辱める者と申さんけりやならん。はて、神天に在します、必

ず救はれる者もあれば、到底、救はれない者もあります。

イアゴ 其通り〜。

キヤシ 僕はです、……將軍に對して、また何人かに對して失禮になつちやア

困りますが、……自分は救はれる積りであります。

イアゴ 副官、僕とてもだよ。

キヤシ なるほど、だが、失敬だが、僕より先きぢやアないよ。副官は旗手

よりも先きに救はるべきだからね。……こんなことは最早よさう。

さ、さ、職務にかゝらう。……神よ、我々の罪過を救はせたまへ！

……諸君、職務に掛りませう。……いや、諸君、僕を酔つてると思

つちやいけないよ。こりや旗手君だ。こりや僕の右の手だ。こりや
左の手だ。酔つちやゐませんよ。しっかりと立つことも出來りや、
明確と物を言ふことも出來ます。

といひ〜倒れかゝる。

皆々 なるほど、いかにも。

キヤシ ぢや、よろしい。僕を酔つてるんだなんぞと思つちやアいけません

よ。

とキヤツシオーよろめき〜入る。

モンタ 諸君、守衛所へ。警護に著手ませう。

イアゴ (モンターノーに) 今、先きへ往つた男を御覽なすつたか？ あの男は

シーザーの傍に立つて指揮をしても恥かしくない武人ですが、只一

つあゝいふ悪い病があります、あれと其長所とが五分々々。氣の

毒なことです。オセロードの信任し過ぎてをられますから、あの病が原で、此島に騒動が起らなけりやようござんすがね。

モンタ あんなことが屢々あるんですか？

イアゴ あれが眠り倒る前置です、いつでも。酒で頭がぐらつきさへせにや、

時計の二周りも夜警に堪へる男なんですが。

モンタ 將軍に其事を注意しといたはうがいゝでせう。或ひは心附いてゐ

なさらんのかも知れない、君子人ですから、キャツシオーの長所ば

かりを認めて、短所に目が届かないかも知れない。ねえ、さうぢや

ありますまいか？

此時、ロダリーゴーがうそくと出る。

イアゴ (ロダリーゴーに傍白) おい、どうしたのだ、ロダリーゴー！ さ、

さ、副官の後をよ。早く。

ロダリーゴー入る。

モンタ お氣の毒なことだ、あのムーアどのが、副官の重任をそんな根の深

い病癖のある男に一任しておかれるといふは。ムーアどのにさう

言つたはうが誠實でせうよ。

イアゴ いや、手前にやア出来ませんよ、此島に代へても。キャツシオーは無

二の親友ですから、どうかして、其うちに、あの病を治してやりた

いと思つてゐます。……ヤッ！ あの騒ぎは？

奥でロダリーゴーの聲で「助けてくれ！ 助けてくれ！」と

叫ぶ。キャツシオー拔劍してロダリーゴーを追ッ掛けて出る。

キャシ うぬ、悪黨めが！ 畜生ッ！

モンタ どうしたのです、副官？

キャシ こいつが手前に對して指揮立をしたのです！ うぬ、藁網かぶりの

壇のやうになるまで叩きみじいてくれるぞ。

ロダリ

何だ、叩きみじくッ!

キャシ

うぬ、まだ吐しゃアがるか?

とロダリーゴーを打擲する。

モンタ

(伸へ割って入って) まアさく、副官どの。まアく、お待ちなさい。

とキャッシオーの腕を支へる。

キャシ

えい、放しなさい。放さんと、頭を叩きみじくぞ。

モンタ

これさく、あんたは酔ってるんだよ。

キャシ

何だ、酔ってるッ!

とモンターノーを殴つ。これにてモンターノーも嚇となつて、

劍を抜く。遂に真劍の立廻りになる。

イアゴ

(ロダリーゴーに傍白) あッちへくッ! 出ていって、騒動々々と呼び

立てるんだ。

ロダリーゴー急いで入る。イアゴは二人を止める介を

しながら

あ、これさく、副官どの……両君とも、どうしたといふんです。

……(奥にむかつて) おい、誰れか来てくれ! ……副官……

まアさく……モンターノーどの……まアさく……おい、

誰れか来てくれ! いや、どうも上等な夜警だ!

・奥で非常鐘が鳴り渡る。ロダリーゴーが鳴らしたのである。

誰れだ鐘を鳴らしアがるのは? ……やい、畜生ッ! 市中が目を

覚すだらうぢやないか? ……どうしたものです、副官、まアく

……一生の耻辱になりますぞ。

此中にモンターノーは手傷を負ふ。

途端に、オセローが従者大勢を伴れて出る。

オセロー 何事が起つたんぢや？

モンタ やッ、まだ血がとまらない、致命傷を負つたらしい。

オセロー まてッ！ 待たんと命がないぞ。

キャツシオーはいよ／＼見さかひがなくなつて荒れ廻り、モンターノーも今は死物狂ひになつて闘つてゐる。イアーゴーは其仲へ割つて入る。

イアゴ まアさ／＼！ 副官……これ／＼……モンターノー……両君とも

……職掌をも義務をも忘れツちまたんですか？ これさ／＼！ 將軍の嚴命です。まアさ／＼、苦々しい！

オセロー 如何したんぢや？ どうして如是事が起つたんぢや？ われ／＼はトルコ人になつたのか？ 天がトルコ人にさへおさせなさんやうな

事を自身が行ふのか？ (峻厳に) 基督教信者の恥辱ぢや、野蠻な争

闘を止めい。止めをらんで、尙ほも怒りをほしいまゝにしをる者は、己が靈魂を輕んずるんぢや、止めをらんと命は無いぞ。

此時、モンターノーは手傷に弱つて倒れる、キャツシオーはイアーゴーらに抱きとめられる。此間、非常鐘は尙ほ頻りに鳴つてゐる。

あのかしましたしい鐘を鎮めい、島の者が愕くわい。……二人とも、どうしたんぢや？ ……イアーゴー、君は非常に愁傷してゐるやうぢや、一體、こりや誰れが始めたんぢや？ 予の爲を思ふなら、眞直に言うてくれ。

イアゴ (愁然として) 一向に存じません。つい先刻までは親友でした、これから床入をしようといふ新夫婦のやうに仲が好かつたのでしたが、

急に、その……悪い星にでも中てられたやうに……劍を抜いて、互ひに胸を目掛けて、怖ろしい勢ひで攻撃しはじめたのです。が、此馬鹿らしい喧嘩が如何して始つたかは存じません。喧嘩中半へ此體を運んで来た如是脚なんか、あゝ、寧ろ名譽の戦争で以て亡くしツちまつてゐりゃよかつた。

オセロ どうしたんぢやマイケーエル、君までが斯んな無謀なことをすると
は？

キャシ (ヤツと我れに返つて、愧ぢ入つて) どうぞお赦し下さい、申し上げやう
もございません。

オセロ モンターノードの、お手前は平素、作法の正しい御仁ぢや、お若い
ころから謹嚴と沈著で世人にも知られて、賢明な人達に稱讃されて
ゐたお方ぢやのに、如何したんですな、其立派な名譽を棄て、夜

間の狼藉者といふ斯様な悪名をお受けなされるのは？ 御返答が承
はりたい。

モンタ オセロードの、自分は重傷を負つてゐますから。……委細は……
何分、息が苦しくつて申されません……御部下のイアゴードのが
承知の筈です。自分としては、今夕申したこと、致した事を、毛
頭、不都合とは存じてをりません、自愛が悪徳でない以上、暴人に
襲はれた場合に自ら衛るのが罪徳でありません以上。

オセロ (憤激して) もうどうも忍耐が出来ん……血が冷靜な理性を御しは
じめた、憤怒が判断を昏まし、先きに立つて事をしようとしてゐる。
やい、俺が若し一步でも進みや、又は此腕を擧げでもすりや、汝等
の最上位者でも嚴罰を免れんぞ。……知らせい如何にして如是不
埒な争鬭が起つた？ 誰れが始めた？ 其發頭人はそれが俺と同産

の双生子であつたつても容赦はせんぞ。何てことぢや！ 非常時の
都會で、人心の恟々としてゐる際に、身方同士、私闘を行ふなどと
は、夜中に、而も治安を司るべき守衛所に於て！ けしからんこと
ぢや。 イアーゴ、誰れが始めたんぢや？

モンタ

(イアーゴに) 眞面目や職務上の交誼なんかで、事實相違の事をい
はれるやうだと、君は軍人ぢやありませんぞ。

イアゴ

そんなに向け〜とお言ひなさるなよ。……(小聲で獨語のやうに)
あゝ、寧ろ此舌を切り取つてしまひたい、キャッシオーの非分になる
事を口にする位なら。 が、事實通りを言つたつて、よもや不爲に
なりもすまい。……(オセローに) 將軍、かうなんでございます。モ
ンターノードのと私が話をしてをりますと、そこへ「助けてくれ」
と叫いて、駈けて來た者があつたんです、それをキャッシオーが、拔

劍で追ッかけて來て、直ぐにも斬り殺さうとしたんです。で、此お
方が割つて入つてキャッシオーを止めてをられる間に、私は叫く野郎
を……叫いて、市中の騒動になつちやアと思つて……果して大騒ぎ
になりましたが……追ッ掛けたんです。ところが、其奴の脚は早
くツて逆も追ひ附けないんで。で、戻つて來ました、叩き合ふ劍の
音が聞えて、キャッシオーの怒つて叫く聲が聞えましたから……こん
なことア今夜まぢやア曾ぞなかつたんです。戻つて來ますと……其
間はほんの暫時です……兩氏は一塊團になつて、撃つやら、突つ
やら。 貴下がお引別なすつた時は二度目に又やりかけた所でした。
これ以上申すことは出來ません。ですが人間は、つまり人間です、
如何な賢人だつて、我れを忘れる事があります。 キャッシオーはあ
のお方に少々不埒を働きました、けれども腹が立つと十分身の爲を

思つてくれる人をも撲ちかねないのが人情でございます、いや慥かにキャッシオーは其逃げてつた奴から容易ならぬ侮辱を受けたらしいのでございます、逆も堪忍の出来んやうな。

オセロ イアーゴ、君は誠實な、深切な心から、事を小さく取りつくろつてキャッシオーを庇はうとしてゐるんぢや。 キャッシオー、予は君を愛しとるが、以後はもう部下にやせんぞよ。……

此時、デズデモーナが侍女共をつれて出る。

見い、我妻までも（此騒ぎで）起されて出て来た……（キャッシオーに見せしめにせにやならんぞ。

デズデ ま、どうしたのでございますか？

オセロ いや、（御心配なさるな）もう濟んでしまつた。 さ、さ、寢床へお歸りなさい。……（モンターノの傍に立寄つて）あんたの手傷は予が自

身で御療治しませう。……あつちへおつれせい。

侍者らモンターノを介抱して入る。

イアーゴ、市中を警戒つてくれ、此珍事で立騒いでゐる者共を落ち著かせてくれ。……さ、さ、デズデモーナ、叩き合ひで香しい眠りを破られるのは軍人の習ひぢや。

イアーゴとキャッシオーの外は皆入る。

キャッシオーは慚愧後悔して、両手に顔を埋めて、しよげ切つてゐる。

イアゴ どうしたんです、副官、あんたも怪我をしたんですか？

キャシ もうどんな療治だつて役に立たない。

イアゴ そんなことがあつてたまるもんか！

キャシ 名譽を、名譽を、名譽を！ あゝ、僕ア名譽を失つちまつた！ 身に

附いた不死不滅のものを失っちゃまった、残ったのア獸類にもあるものばかりだ。イアーゴ、僕ア名譽を失っちゃまった、名譽を！

イアゴ

僕アかういふ正直者だから、實際、怪我をなすったのかと思つた。名譽よりや手傷のはうがまだしも感覺がある。名譽なんざ空な、諛ツばちの被負物でさ、功勞がなくなつても時々は手に入るが、罪が無くつても時々は無くなる。名譽が種無しになる筈が無いよ、自身で種無しにしたとさへ思はなけりや。これさく！ 將軍の機嫌を取返す方法は幾らでもあるよ。一時の腹立で免職を命ぜられたんだ。憎くつてぢやアない、政略上の懲罰なんだよ、恰ど咎のない犬を殴りつけて、猛烈な獅子を威かすのと同じ手なんだ。改めて請願すりや元の通りになるよ。

キヤシ

寧そ蔑み憎んで下さいと請願したはうがい、あんな善良な將軍を

欺いて、こんな不束な、飲んだくれの、無分別な身を以て副官なんかになつてゐるくらゐなら。酒に酔つて、たわ言を吐いて、争ひ罵り、悪言を放ち、うぬが影を相手に大言を吐くなんざア！ お、おのれ、目に見えない酒の精め、汝にまだ名が無いなら、これからは汝を悪魔と呼ぶぞ。

イアゴ

時に、ありや何者でした、君が劍を抜いて追ッ掛けなすった奴は？ 彼奴が何をしたんです、君に對して？

キヤシ

知らない。そりや、どうも不思議だねえ！

キヤシ

大體は記えてるが、何もかも只もう漠ツとなつてゐる。喧嘩したのは記えてるが、何が原因だったか、些も。……お、神よ、おのが魂ひを盗む仇敵を自分で以て其ロン中へ入れるとは！ 喜んで、

イアゴ 浮れて大喝采をして、自分から獸類に成り下るとは！
 だつて、今はもう大丈夫だよ。え、どうしてさううまアく回復しッ
 ちまつたんです？

キヤシ ドロンケンといふ悪魔様が、癩癩といふ悪魔様にお代りなすつたんだ。
 後の缺點で前の缺點がよう解るから、われながら愛想が盡きる。

イアゴ これさく、君は道學者だ、餘り嚴格過ぎる。時や場所や現下の
 國情からいや、心底こんな事が起らなかつたらと思ふけれど、起ッ
 ちまつた上は(爲方がない)何とか工夫するさ、身の爲になるやうに。
 どうぞ復職させて下さいと頼むとする、將軍はきッと言ふだらう、
 汝は酒亂だと！ 僕に九頭蛇ほどの口があつたつて、さう言はれりや
 もう言句は出ない。……つい今ぢや分別力のある人間、それが忽

ちのうち到大馬鹿者になり、又、忽ち畜生になツちまふとは！ お
 お、奇怪千萬！ 過度の酒盃は悉く災禍なんだ、さうして其中實
 (酒)は悪魔だ。

イアゴ これさく、善い酒は(悪魔どころか)可愛い使魔なんだよ、利用次
 第で。酒のわる口はもう止めく。時に、副官どの、僕が貴君に
 好意を有つてゐることは解つてませうね。

キヤシ そりや十分解つてるよ。……亂醉しッちまふとは！
 だつて、君だつて、誰だつて、時としちや亂醉することもあらうわさ。
 ……ねえ、どうしたらいいかを忠告しませうよ。……今ぢや將軍
 の奥さんが將軍なんだ。といふのはだ、ねえ、君、昨今の御大は
 只もう奥さんの才能や美貌を詠めたり考へたりすることにばかり身
 をも魂をも打込んぢまつてをられる。だから、奥さんへ一切の事を

打明けて、さうして、復職の執成しを頼むんだ。きっとさうなるやうに盡力してくれるよ。寛大で、深切で、動かされ易いけつこうな性質だ、頼まれりや其以上の事をせにや氣が濟まんといふ婦人だ。將軍と君の間の此外れた關節は、あの婦人に繃帯して貰ふに限る。さうすりや、此破れかけた情誼が前よりも一層堅固に成るに相違ない、請合ひだ。

キャシ

好い忠告をして下さった。なるほど。

イアゴ

眞實正銘、全く君の爲を思ふからいふのだ。

キャシ

全くさうだらうと思ふ。明朝早くデズデモーナさんに執成しを頼んで見ることにしよう。若しそれが叶はんやうなら、僕の運もこれまでだ。

イアゴ

御道理。ぢや御きげんよう、副官。僕ア夜警をせにやならん。

キャシ

御機嫌よう、イアゴーゴードの。

キャッシオー入る。

イアゴ

(北叟笑みして)するとだ、俺を悪黨だてのは何奴だ？ 俺の忠告は飽迄も眞實な、好意から出てゐる。道理らしうもありや、何様、ムーアの機嫌を取返す好方便らしうもあらうぢやないか？ 靡き易いあのデズデモーナにかういふ正當な願ひを持ち込むにや手数は要らない。彼女は自由な原素同様、ふんだんに施しをしたがる女だ。さうしてあの女の口でムーアを口説くとする、よしんば洗禮をだ、いや、贖罪の符號を捨てさせることだつても……奴の魂ひはあの女の色香に縛られつちまつてるから……臥かさうと、起さうと、好勝手にならア。奴の脆い心に於けるあの女は全然神様なんだから。……するとだ、どういふわけで俺が悪黨なんだらう、キャッシオーの

爲になる眞ッ直な平かな道を教へてやつてゐる此俺がだ？……へッ、これが地獄道といふ奴だ！ 悪魔が大罪惡を人間にさせようとする時分にや、先づ殊勝らしい様子をして誘惑す、俺が今するやうに。……といふのは、あの馬鹿正直めが運直しをデズデモーナに頼み込み、女がまた彼奴の爲に手強くムーアに辯護を試みてをる其最中に、女がキャッシオーを呼び戻したがるのは邪淫の爲だと、俺がムーアの耳へ疫毒を注ぎ込んでくれる。すれば、女がキャッシオーの爲に骨を折りや折るほどムーアに疑はれることになる。さうしてあの淑徳を瀝青に變らせて、女めの深切を種に、彼奴ら残らず、只一網に取ツちめる大投網を製へてくれよう。

ロダリーゴーが出る。

どうしたね、ロダリーゴー！

ロダリ

隨いて来たのは獵をしに來たんだ、それなのに、獵犬らしい働きは些も出來ない、ほんの其數に入つてゐるばかりだ。貨幣はもう大がい亡くなつちまつた。今夜は迎もひどく殴られた。此様子ぢや、骨折損の草臥儲だけををして、貨幣を悉皆亡くしてから、(お庇で)ちつとばかり伶俐になつてゼニスへ歸るのが結果だらう。

イアゴ

情けないもんだなア忍耐心の無い人間てもものア！ 如何な負傷だつて、漸々でなくツちやア治らないぜ！ ねえ、人間は智慧で爲事をする、魔術でやらかすんぢやない、とすると、智慧の爲上げにや時間がかかる。好い具合に運んでるぢやないか？ キャッシオーが君を殴つた、君はそれ、ほんの少ウしばかりの負傷したお庇で彼奴を抛り出してしまつたらう。他の事も日光に當つて追々好い鹽梅になつてゆくが、先きへ花の咲いたのから實を結ぶのが順序だ。ま、ま、暫

く忍耐してゐたまへ。……おや、もう朝だぜ。愉快に働いてると、
時が速く経つ。退出々々。さ、さ、宿泊所へ歸りたまへ。いづれ
又、話をしよう。これさ、行きたまへといふのに。

ロダリーゴーしぶく入る。

爲事は二つだ。先づ、妻に吩咐けてキャッシオーめを奥へ取持たせ
にやららん。む、さうさせよう。……其間に、俺はムーアめを
別所へ伴れ出して、恰どキャッシオーがデズデモーナに頼み込んで
ゐる最中に伴れて戻る。さうだ、それが手だ。……ぐづっかして
ゐると、計略が冷めて寢刃になる。

イアーゴーも入る。

第三幕

第一場 城の前。

キャッシオーと數人の樂人が出る。

(前幕の數時間後と假定していゝ。デズデモーナの居間下
の窓の前で、樂を奏させるのである。新婚を賀して其家の
前で奏樂するのは當時の慣例。)

キャシ

はて、師匠たち、こゝでやつて貰はう。それだけの報酬はするよ、
何か短いものをね。「めでたき早朝、將軍閣下」をやつて貰はう。

樂を奏し終る時分に、道外方が出る。

道外

ねえ、師匠たち、其樂器はネーブルズへでも往つてゐたのかい？
怖ろしく鼻にかゝるねえ。

樂人甲 どうしてどす？

道外 そりゃいつでもそんな風に、ブー／＼鳴るのかい？

樂人甲 はい、さやうです。

道外 あ、なるほど、そこに一件 (tale) が下つてゐるんだ。

樂人甲 え、一件とは？

(tale と tail の口合である。他の作中にも屢々使用される。

tale は「話柄」、即ち一件の義ともなる。tail は體の下部に

垂下してゐるもの、即ち男性器、これも一件と俗には謂ふ。

ブー／＼いふ箇處の附近に垂下してゐるといふ卑陋な洒落。)

道外 はて、俺が知つてるブー／＼鳴る樂器の傍にや、大概、一件がぶら下

つてゐる。……それはさうと、師匠たち、これが禮金だ。將軍は

ねえ、迎も君たちの音樂がお氣に入つたさうだ、だから、後生だ、

スナ

樂人甲

もうどうか止してくれといふお沙汰だ。
ぢや、止めませう。

道外

だがね、聞えない音樂なら、やつたつてもいゝだらうよ。將軍は餘
り音樂好きぢやアゐなさらないさうだけれど。

樂人甲

聞えない音樂なんざありませんよ。

道外

ぢや、其管は悉皆袋へおしまひ、俺はこれで別れるから。さ、早く
(氣取つて) 空中へ消えてなくなれッ！

樂人らは、そこ／＼にして入る。

キャシ

おい／＼、君に頼みたいことがある。

道外

はてね、甥だなんてと呼ばれる縁はない筈だが。

キャシ

駄洒落は止してくれ。輕少だが、こりや君へ。(鼻薬をくれて)……
若し奥さんにお仕へしてゐる婦人が起きてをられたなら、キャッシ

オーといふ者が少々お會談を願つてゐると取次いで貰ひたい。どうだらうなア?

道外

へい、もう起きてをられますよ。若しこゝへまでも起きて來られさうな様子でしたら、いかにも、さやう、申し次ぎ奉るでもございませう。

キヤシ

何分頼むよ。

道外方悪身をしつゝ出る。

イアーゴーが出る。

いゝところへ、イアーゴー。

イアゴ

あんた、寝なかつたらしいね、ゆうべは?

キヤシ

さうさ。あんたに分れる前に、夜が明けっちゃった。失禮だったけれど、つい、今、あんたの細君をお呼び立てしてゐるところです。

イアゴ

デズデモーナさんへの橋渡しを頼むために。

すぐに此處へよこませう。さうして僕はムーアどのを、どこか餘所へ引ッ張りだす工夫をしよう、君たちが遠慮なしに用談の出来るやうにする爲に。

キヤシ

いや、どうも有りがたう。

イアーゴーは城の中へ入る。

故郷のフロレンス人にだつて、あんな深切な誠實な男はゐない。

イミーリヤが出る。

イミリ

お早うございます。ほんとにお氣の毒様ねえ、御不興をお受けなさいまして。でも今に御首尾がお直りなさいませう。大將さまも、奥さまも始終そのお話をなされてゐす、さうして奥さまは精々お執成しをなされてございますの。すると、ムーアさまはおっしゃい

ます、貴君が手をお負はせなすつた方は、サイブラスでは逆も高名で、お歴々に縁故の深いお仁だから、とくと利害を考へると、どうしても免職させない譯にはいかん、が、憎いと思つちやないんだから、故障さへ無くなりや、誰れが頼まなくつても、自分が好んで呼び返す積りだとおっしゃつてございしましたのよ。

キヤシ
ですがね、……成るべくなら、若し不都合ぢやないといふお考へですなら、デズデモーナさまと暫時差向ひで、お話の出来るやうに取計つて戴きたいのですが。

イミリ
さ、さ、お入りなさいまし。御案内しませう、御遠慮なく御胸中をお打明けなさることの出来ますところへ。

キヤシ
いや、どうも有りがたう。
二人ともに入る。

第二場 城内の一室。

オセロー、イアーゴー及び紳士役数人出る。

(近世の實演では、皆々板附きで、オセローは諸方へ送る書面に恰も封印をしてゐる最中である。)

オセロ
イアーゴー、此書面を船頭に渡して、元老會へよろしく申したと傳へさせてくれ。それが濟んだら、予は城壁の邊を歩いとるから、あそこへ來てくれ。

イアゴ
承知いたしました。

オセロ
諸君、砦を一望致しませうかな？

紳士ら
お伴仕りませう。
皆々入る。

第三場 城内の庭園。

デズデ モーナとキャッシオーとイミリーヤが出る。

デズデ

大丈夫です、キャッシオーさん、貴下の爲に力の及ぶかぎりを盡しませうから。

イミリー

奥さま、どうぞさうしてあげて下さいまし。眞實夫も自分の事のやうに心配してをりますのよ。

デズデ

お、ほんとにイアーゴは誠實な人です。……キャッシオーさん、貴下と夫とをきつと元通りの仲よしにして見せませうよ。

キャッシ

有りがたうございます、マイケーエル・キャッシオーの身は今後如何變りませうとも、御厚恩は決して忘れません。(いつまでも貴女に忠勤を盡します。)

デズデ

そりやよう存じておますの。ありがたう。貴下は夫を愛しておいで、久しいお知合でもありませんもの、大丈夫です、よし(當分)御疎遠にいたすにしても、それは只世間體だけといふやうなことにさせませうよ。

キャッシ

さア、ですが、その、世間體と申すことが長く續きます間には、そいつが水ッぽい、つまらん餌食でも肥ります、些細な事情が原でも生長ちもします。私が居りませんうちに代役の者が出來ますりや、將軍は私の愛や勤勞をお忘れになつちまふに相違ございません。

デズデ

其御心配は御無用です。此イミリーヤを證人に、貴下の復職を受合ひますから。大丈夫ですよ、わたしが盡力すると誓つた以上、どこどこまでも盡力しますから。夫を決して寝かしやしません。聽いてくれるまでは起しておきます、逆も辛抱がしきれなくなるまで

口説きます。寢床を稽古所に、食卓を懺悔臺のやうにします。夫が何をしておいても、必ず貴下の請願を持ち出すことにします。ですから、安心していらっしやい、貴下の此訴訟を棄てる位なら死んだはうがいゝとさへ思つてゐます。

遠くへオセローとイアーゴーが出る。

イミリ 奥さま、殿さまがお見えになりました。

キヤシ (そはくして) 奥さま、お暇をいただきます。

デズデ まあ、こゝに待つてゝ、わたしのいふことを聴いていらっしやいな。

キヤシ いゝえ、……心が落ち著きませんで、只今はお願ひ申しにくうございますから。

デズデ では、良しいやうに。

キヤシオーあわてゝ入る。

此うちに、オセローとイアーゴーは近づく。イアーゴーはキヤシオーの後ろ影を見送つて、わざとだしぬけに、

イアゴ おや！ 何てこつた。

オセロ えッ何が？

イアゴ (吃り口調で) いゝえ、何でもありません。……が或ひは……いや、

オセロ 何も、その……

イアゴ 今、妻に別れて出て行つたのは、キヤシオーぢやなかつたか？

オセロ え、キヤシオーですつて！ なアに大丈夫、さうぢやありませんまい、

貴下がお出になつたのを見て、罪人か何かのやうに、窃々逃げて行く筈ありませんもの。

オセロ いや、どうも彼れのやうだつた。

此中にデズデモーナが出迎へる。

デズデ あなた、御機嫌はいかゞ？ 今ね、願ひ事に來た或人と話をしてを
りましたの、御不興を受けて萎れ返つてゐる人と。

オセロ といふのは誰れの事ツちゃね？

デズデ 副官のキャッショーさんなんですの。ねえ、あなた、若しわたしの
徳なり力なりを重んじて下さいますなら、ねえ、彼人を今直ぐ赦し
てあげて下さいな。貴下を、眞實思つてゐる人なんですのよ、不埒
をしたつて、つい、氣が附かなくなつてしたんで、たくらんでしたん
ぢやありませんのよ、若しさうでなかつたら、わたしにや人柄を見
別ける目が無いのです。ねえ、彼人を元通りにしてあげて下さい。
今こゝから出て行つたのか？

オセロ はい。逆も恥ぢ入つて、歎いてゐるんですの、歸んなすつた後で此
方まで貰ひ泣きをします程に。ねえ、元通りにしてあげて下さい。

デズデ

オセロ デズデモーナどの、今はいかんよ、其内にどうかしよう。

デズデ だつて、そりや直なの？

オセロ あんたの頼みだから、成るだけ早く。

デズデ 今晚の夕食頃？

オセロ いゝや、今夜といふわけにはいかん。

デズデ ぢや、明日の中食頃？

オセロ 明日の中食は宅ぢやせん。若で、將官連に會ふ筈ぢやから。

デズデ そんなら明日の晩とか、火曜日の朝とか……火曜日の午とか、夜
とか……水曜日の朝とか、ねえ、時を定めといて下さい。三日以
上になつちやいやよ。ほんとに後悔してゐるんですもの。不埒をし
たといつたつて、通例なら……もつとも、軍の時にや如何な身分の高
い人をも見せしめに罰しなくちゃならないさうですけれど……通例

なら、絶交なさる程の越度ぢやないでせう。……いつ呼び返して下さるの。オセローどの、おっしゃって下さい。……ほんとに、まあ、貴下が何か、お頼みなさる時分に、わたしがいやだなんていふことがあるでせうか？ わたしがそんなにぐづっかしてゐるやうなことがあるでせうか？ えッ、人も人ですのよ！ マイケーエル・キヤッシオーは貴下と一しよに宅へ申し込に來た人でせう、私が貴下の事を悪く言つてた時分に、何度もく貴下の肩を持った人でせう、其人の執成しをしてゐるのだのに、こんなに骨が折れるとは！ ほんとに、若しこれがわたしなら……

オセロ

頼む、もうよしてください。いつでも呼び返す。あなたの頼みは何でも聴く。

デズデ

こりや恩恵でも何でもないのよ。手袋を穿めて下さいましとか、滋

養になるものを召食れとか、濫かくしていらつしやいとか、只もう貴下のお爲になる事を願つてゐるのとおんなじですよ。いゝえいゝえ、ほんとに、わたしが貴下の本心を試さうと思つた日にや、それこそ重い、むづかしい、お許しなさるのが怖いやうな事をお願ひしますよ。

オセロ

どんな事だつて否とはいはんによつて、頼む、ま、暫く彼方へ去つてゐて下さい。

デズデ

はいく、おっしゃる通りにします。ぢや、さやうなら。

オセロ

さよなら、デズデモーナどの。今に行きます。

デズデ

イミリーヤ、おいで。……あなたのお好きなやうに。わたしや、どんなにでも、お言葉通りにいたしますの。

オセロ かはゆい奴ぢや！ 此魂このたましひも奈落ならくに墮おちよ、予わしがお前まへを可愛かはいがらんやうなことがあつたら！ お前まへを可愛かはいがらん時ときが来くりや、そりや此世このせ界かいは混沌めつちやくちやになつた時ときぢや！

イアゴ 閣下かくか……

オセロ え、イアゴー、何なんぢや？

イアゴ 御縁談ごえんだんをお申し込こみの時じ分に、あのキャッショーは奥おくさんと貴下あなたの仲なかをもう既に知しつてゐたんですか？

オセロ うん、何もかもな(初めから終しまひまで)……何故なぜそんな事ことを問とふんぢや？

イアゴ ちよつと考かんがへたことがありますんで。どうといふ不都合ふつがふもないんですが。

オセロ どう考かんがへたんぢや？

イアゴ 彼男あのをとこが奥おくさんをお知りしてゐようとア、夢ゆめにも思おもつてゐませんでし

たからね。

オセロ 知しつてゐたとも。仲人役なかくどやくをしたんぢや、屢しばしば。

イアゴ えッ、實際じつさい？

オセロ なに、實際じつさい？ うん、實際じつさいぢや。それが如何どうしたといふんぢや？

イアゴ さア、誠實せいじつだとおっしゃるんですか？

オセロ なに、誠實せいじつぢやと思おもうとるかッて？ うん、誠實せいじつぢや。

イアゴ なるほど、さうかも知しれませんか。

オセロ お前まへは如何どう思おもふ？

イアゴ 如何どう思おもふとおっしゃるんですか？

オセロ 如何どう思おもふとおっしゃるんですか？ ……(傍白)如何どうしたといふん

ぢや、口眞似くちまねばかりしをる。打明うちあけるのが怖おそろし過すぎるやうな奇怪きくわい

な事でも考へてゐるやうに。……(イアゴに)何か仔細があるらしい、つい今、お前は「何てこつた」と言った、キャッショーが妻に別れて出て行った時に。何がどうしたんぢや？ それから、又、縁談中に彼れが仲人をしたといふ事を話した時に、「えッ、實際？」と驚いたやうに言うて眉に皺を寄せた、何か頭の中に怖ろしいことでも收藏んでをるがやうに。俺の爲を思ふなら、思うとることを知らしてくれ。

イアゴ

(ちつとオセローの顔を見詰めて)閣下、私が閣下を愛敬してをりますことは御承知でございませうね。

オセロ

うん、さう思うとる。誠實で、眞實に俺を思うてくれて、何事も口へ出す前に先づ善う考へる男ぢやと思うとればこそ、言ひかけでは躊躇するのを只事ぢやないと驚くんぢや。それは腹の黒い輩な

りや、人を騙す手なんぢやが、正直者がそれをするのは、何か堪忍の出来ん秘密の憤懣なぞがあつて、それをば洩しかねて悶えてゐるんぢや。

イアゴ

あのマイケーエル・キャッショーは……私は誓言します……誠實な男だと思つてゐます。

オセロ

俺もさう思ふ。

イアゴ

多分、人は見かけ通りの者でございませうねえ。若しさうでないやうなのがありや、さう見えないやうにしたいもんで。

オセロ

無論、人は見かけ通りのもんぢやらうて。

イアゴ

ぢやア、キャッショーは誠實な男でございませうよ。

オセロ

いや、まだ何か思うとることがあるらしい。……どうか俺に話してくれ。お前が思うとることを、思うとる通りに……如何な最悪

な事でもかまはん、其最悪のまゝに話してくれ。

イアゴ

どうか、それは御免を蒙ります。本務上の事でありや、如何な事でも致しますが、奴隷だって、思想の自由だけは許されてゐます。

思つてゐる通りを言へとおっしゃるんですか？ はて、どんな邪曲な

考へを手前が抱いてゐまいもんでもございませんよ、如何な立派な

宮殿へでも怖ろしく穢いものが這入込まない譯にやいきませんから

ね。どんな清浄な胸中にだつて薄汚い考思めが正しい考思と同

席して裁判沙汰をやらかしますからね。

オセロ

イアゴ、汝は親友に對して悪意を抱いとるんぢや、其親友が侮辱されとると思ふとりながら、それをば知らせようともしをらんやうなら。

どうか……(どもつて躊躇しつ)ま、多分、これは私の邪推だらう

イアゴ

と存じますんですが……正直、私は、とかく、他の過失を見附ける悪い癖があるんです、どうかすると、有りもせんことをあるやうに邪推することがあるんですから……どうか、さういふ不具な、

當推量なんかをお氣にお懸けになりませんやうに、ふと申した曖昧な事なんかで原で御心配なさるやうなことのございませんやうに。

貴下の御不安心の種になるばかりで、何のお爲にもならず、自分

としても男らしくないとか、不誠實だとか、無思慮だとか、わるく

言はれるばかりですから、思つてゐる事を申し上げりや。

なぜそんなことをいふ。

閣下、名譽は、男にも女にも、魂ひから直接二番目の寶物でござい

ます。私の財布を盗む奴ア徒の些屑物を盗むんです、何かぢやある

が、つまり、何でもないもんです。私の有だつたが、今は其奴の有、

第三幕 第三場

一三九

其以前にも數千人が使つてたものです。ところが、私から名譽を奪
る奴ア、奪つたつて奴が物持になりもしない癖に、私は素寒貧になつ
ちまひます。

オセロ

こら、是非とも汝が思うとる事を言はせんぢやおかんぞ。

イアゴ

いや、そいつア御無理でせう、たとひ私の心臓が貴下のお手の中に
あつたつてもです。沉んや私が保監してをります間はです。

オセロ

やッ！（さては！）

イアゴ

お、閣下、決して邪推をなすつちやいけませんよ。邪推は人の心
を玩んで餌食にする緑眼玉の怪物です。妻に不義をされてゐて
も、其運命をよく知つて、其不埒者を愛せない男は仕合者ですが、
お、何て淺ましい月日を送るこつてせう、其女に惚れてゐて、疑
つて、危んで、しかも尙ほ可愛がらずにやゐられないやうな男は！

（邪推の原語 jealousy は主として性に關した猜疑、邪推を
指す。で、「嫉妬」と譯しても恰當な場合がある。が、「嫉
妬」、「悋氣」、「ヤキモチ」とばかり譯しては、内包が大分不
足だと思はれるから、わざと本文の如くに譯しておいた。）

オセロ

お、みじめなく！

イアゴ

貧乏でも足ることを知つてゐりや、大金持も同然ですが、どえらい
物持だつて、貧乏になりやせんかと絶えず心配をしてゐるぢや、其心
は冬枯です。あ、天よ、どうぞ吾々人間に邪推心を起さしめら
れませんやうに！

オセロ

（心が惑亂しかけて）はて、何故そんなことをいふ？ 汝は俺が邪推な
んかをして月の形の變る度に上へくと疑念をば積み重ねるやうな
生活を送ると思ふか？ いや、俺は疑へば直ぐに解決してしま

ふ。山羊やぎに生れうま變りかはや知らんこと、汝きさまが想像さうざうするやうな、そんな空くうな疑惑ぎわくで心を勞こころする俺おれぢやないわい。俺おれは決して、邪推じやすゐはせん、妻さいが美うつくしくて、善よう物を食くうて、交際かうさい好きで、よう喋しゃべつて、よう歌うたうて、よう奏かなでて、よう踊をどる女をんなぢやと言いうたからとて。淑德しゆくどくさへありや、それらは悉みん皆なえいこつちや。よしまた俺おれにいろんな弱點ひけめがあらうと、その爲ために、妻さいが背反はいはんするぢやらうなんぞといふ危惧おそれも、疑惑ぎわくも持もつてをらん彼女おれに眼めがあつて予われを選えらんだんぢやから。いゝや、イアーゴ、俺おれは疑うたがふ前に先まづ見る、疑うたがへば證據しやうこを求もとめる、さうして證據しやうこが擧ありや、愛あいを棄すてるか、疑心ぎしんを棄すてるか、どちらかにしつちまふんぢや!

イアゴ

さう承うけたまはつて安心あんしんしました。それで私も安心あんしんして忠義ちゆうぎの務つとめを盡つくすことが出來できます。ですから、これは義務ぎむですから、申し上げま

す、お聴きき下くださいまし。尤もつとも、まだ證據しやうこを見みたんぢやございませんが……ねえ、もし、奥おくさんに御注意ごちゆういなさいまし、キャッショーとの御關係ごくわんけいをです……目を斯かう著つけて、お疑うたがひなさるでもなく、油斷ゆだんをなさるでもなく、御磊落ごらいらくな、高尚かうしやうな、寛大くわんだいな御氣質ごきしつを好あいい幸さいひに、いゝやうにごまかさうとする奴やつのあるのが癪しゃくなんです。御注ごちゆう意いなさいまし。私てまへは國くにの者ものの性質せいしつはよく知しつてゐます。ゼニスぢや夫ていしゆに見みせ得えない惡戲いたづらをも天てんに見透みかされてしまつてゐます。彼きや奴やつらの最上さいじやうの良心りやうしんは、それを爲せないでおくのぢやアなくつて、知しられないうやうにと力つとめるまでゝす。

オセロ

きつと然さうか?

イアゴ

お父とうさんをお欺だましなすつた婦人ふじんです、貴下あなたと御結婚ごけつこんなさらうために。貴下あなたの顔かほを怖こはがつて慄ふるへてござるやうに見みえてた時分じぶんに、實じつア迎むかへ

惚れ切つておいでなすつたんでござんせう。

オセロ

いかさま、然うだった。

イアゴ

はて、そこでさ、果して然うだとすると、あの齡であんなに巧く取繕つて……魔術の故だらうと思はせて親御を鷹同様の目ないにしまふ程の腕前のある奥さんです……いや、こりやどうも相濟みません、眞ッ平御免下さいまし、つい、その、貴下を思ひます餘り申し過ぎまして。

オセロ

いや、禮をいふ、有りがたう。

イアゴ

どうやらお氣色に障つたやうに存じますが。

オセロ

いゝや、些も、些も。

イアゴ

いや、どうもお氣色を損じたやうに存じます。ねえ、もし只今申し上げました事は、只もうお爲を思ふゆゑぢやと思し召して下さい

ますやうに。……どうも大變にお氣に障つたらしい。どうか、今申した事は徒の疑念だと思ひ下さいまして、それ以上の御推測な

オセロ

しやせん。

イアゴ

萬一、變な御推測をなさいますやうですと、今申した事が原で、私の思ひがけなかつた、とんだ結果が生じないとも限りませんから。キヤッシオーは私の敬愛してゐる親友なんで……どうもお氣に障つたらしい。

オセロ

いゝや、どうといふこともない。俺はデズデモーナを不貞な女とは能う思はん。

イアゴ

どうか、いつまでもさうあらっしゃいますやうに！ 奥さんも、貴下もです！

オセロ が、どうして人情の自然に背いて……

イアゴ さやう、そこなんです。……遠慮なく申しますが、本来なら、自

分の生れた國の、氣質や身分の善く釣り合った申し込みが幾らもあ

つたのに……さういふのを好くのが人情の自然だのに……嫌ふて

のは、不自然でもありや不釣合でもあつて、何となく臭いやうな、

穢しいやうな……御免下さい……こりや何も、特に、奥さんを

指して申してゐるんぢやありません。もつとも、奥さんだつて、若しと

つくりと分別を爲直して、國の者と貴下とをお見比べなさるやうな

ことがありますや、後悔なさるまいものでもありませんが。

オセロ (面を背けて) さよなら……。また何か認めたことがあつたら知らせ

てくれ。お前の妻に見張役をさせてくれ。もう退つてもえい。

イアゴ ぢや、お暇をいただきます。

と行きかけて、イアゴは物蔭で様子を窺つてゐる。オ

セローは煩悶の思入れ。

オセロ (獨白) なぜ俺は結婚したか? ……あの、誠實な奴、今言うた以上

に見聞きしたことがあるに相違ない。

イアゴ (戻つて来て) 閣下、どうか此事はもう強ひて御穿鑿なさいませんやう

に。成行にお任せなさるがよろしい。キャッショーは至極の適任

ですから、復職は當然だと存じますが、もう暫く遠ざけておゝきに

なりましたら、それで以て自から彼れの本心も、又、何を手蔓にし

てゐるかもお解りになりませう。奥さんが躍起となつて彼れの復職

をお強請りなさるやうですと、それでも大ぶん様子が知れませう。

ま、それまでは、私の申した事は取越苦勞に過ぎんのだと思ひな

さいまし……われながらさうらしいと思つてるのでありますから

オセロ

……そしてどうか、奥さんを清淨潔白だと思ひなすつて。
無分別の事なんかは決してせん。

イアゴ

ぢや、改めてお暇をいたゞきまする。

イアーゴー入る。

オセロ

あいつは至つて誠實な上に、世故にも長じとつて、あらゆる人間の性質を知りぬいとる奴ぢや。……萬一にも彼女が手におへん荒鷹であつたなら、たとひ其脚紐が俺の命の緒であらうと、斷ち切つて風下に追ひ放つて、後は運次第にしてくれろ。或ひは俺が色が黒うて、文官共のやうな優美な交際術に長じてをらんから、或ひは齡が下り坂になつとるから……いや、まだそれほどでもないんぢやが……それで愛想を盡しをつたか？……侮辱されたのを慰める法といや、彼奴を憎むより外にや無い……おゝ、何て呪はしい夫婦仲ぢや、あ

あいふ美女共をわが有と呼ぶのは、ほんの名ばかりで、其眞情は我が有でないちふのは！ 愛する女を他人に自由にされて、ほんの其片隅だけを有つとる程なら、蝦蟆にでもなつて穴牢の穢い空気を吸うとるはうが優ぢわい！……が、とかくそれが上流社會の災厄ぢや、彼等は其點では下賤の者よりも劣つてをる。二本角の生えるのは産れると共に定まる災厄で、死と同じに免れがたい運命なんぢや。……あゝ、デズデモーナが來た。

デズデモーナとイミリーヤが出る。

デズデ

彼女が不義をするやうなら、天が自ら欺くんぢや！ 信ぜられん。ねえ、あなた、どうなすつたの？ お食事の準備が出來て、お招きになつた島の仁たちも皆な貴下を、お俵ちなすつていらつしやるんですのに。

オセロ そりや濟まなかつた。

デズデ なぜ其様な切なさうな息づかひをなさいますの？ お氣分でもわるいんですか？

オセロ (額をおさへて) 痛いんだ、額が、此邊が。

デズデ きつと、夜ッびてお寝らなかつたからでございませうよ。もう、ぢつきに治りませう。わたしが緊ウく縛へたなら、すぐよくおなりでせう。

とハンケチでオセロの額を縛へようとする。

オセロ いや、それぢや小さすぎる。

とオセロが焦れ氣味で排斥けるはずみに、ハンケチが床の上に落ちる。デズデモーナがそれを拾はうとするのを止めて

うっちゃつとき。さ、一しよに行かう。

と立上る。

デズデ ほんとに御氣分がわるくっちゃいけませんことねえ。

オセロはデズデモーナと共に奥へ入る。とイミリーヤが落ちてゐるハンケチを拾ひ上げて、

イミリー ま、いゝ鹽梅にハンケチが手に入つた。こりやあのムーアさまが初

手に奥さまへお贈げなされたお贈物。氣まぐれな我夫がこれを盗んで来てくれと百たびも口説きなすつただけけれど、手離しぢやならんぞと嚴重に言ひつかつておいでなすつた品だから、奥さまが逆も大事にして、キッスをしたり、物を言つて見たり、始終手離さないでいらしたから、盗まうにも機がなかつた。……此型を撮つてイアゴードのに渡さう。これを何にするんだらう、天道ぢやなし、

解らない。只もう氣まぐれな我夫の機嫌を取る爲ばかりに。

イアーゴー出る。

イアゴ どうしたんだ！ 何してゐるんだ？

イミリ お叱りなされるなよ、あんたにあげるものがあるわよ。

イアゴ くれる物？ ろくな物ぢや……

イミリ え？

イアゴ なからう、女房のくれる物なら。

イミリ おゝ、それッきり？ あのハンケチは欲しくないかい？

イアゴ え、どんなハンケチ？

イミリ どんなハンケチ？ ムーアさまが初手にデズデモーナさまにお贈げなすつた、それ、あんたが何度も〱盗んでくれとお言ひなすつたあれさ。

イアゴ あれを盗んでくれたか？

イミリ いゝえ、うっかり落しなすつたのを、好い具合に居合せてゐたから拾つたのさ。ほら、これよ。

イアゴ うい奴。よこせ。

と取らうとするのを、避けて、高く手でかゝげて

イミリ これで以て何するつもり？ あんなに躍起となつて盗んでくれとお言ひなすつたけが。

イアゴ はて、（とハンケチを引ッ奪つて）そんな事ア如何でもいゝぢやないか？

イミリ いゝえ、大して必要があるんぢやなけりや、返して下さい。憫然さうに、これが無くなりや、奥さまは、お氣が狂ふかも知れないから。知らん顔をしてゐな、要ることがあるんだ。さ、あっちへいけ。

イミリーヤしぶ〱入る。

此ハンケチをキャッシオーの宿に落しておいて、拾はせる。空氣ほどの軽いものでも、疑つてゐる者にや、聖書の御本文ほどの證據になる。これが何かの役に立つだらう。ムーアめは俺の毒が利いて既う大ぶ變つてゐる。邪推嫉妬の本來は劇毒だ、初めはそれを苦いとさへも思はないんだが、おひく血に働きかけると、肉體中を硫黄の山のやうに焼き立てる。……そら、どうだ、あそこへやつて來た。

オセローが煩悶の思入れで出る。

罌粟でも、惡魔林檎でも、世界中の如何な睡劑でも、もう昨日までのやうに心持よく眠ることは出來まい。

オセロ

(默想に沈みつ) え！ え！ 不義不貞を働く？

此中に、イアローは徐かにオセローに近づきて、如何にも氣の毒さうな思入れで

イアゴ

將軍、どうなすつたんです！ あの事ア、どうか、もう……

オセロ

えい、退れ！ 去ッちまへ！ 汝は俺を拷問臺へ載せをつた。生中、少ウしばかり知つたよりヤア 夥しう侮辱されたはうがまだ優ぢや。

と煩悶する。

イアゴ

どうなすつたんで！

オセロ

何とも感じぢやをらなんだんぢや、内々で邪淫を行うとつたか知らんが。見もせんし、疑ひもせんし、どういふ害をも蒙つぢやをらなんだ。其翌晩ぢやつて善う眠つた、安樂ぢやつた、愉快ぢやつた。彼女の脣にキャッシオーが接吻した跡なんか見えもせなんだ。物を盗まれても、當人がそれに心附いてをらんけりや、知らせんはうがえい、すれば奪られんも同然なんぢやから。

イアゴ

どうもとんだお氣の毒なことをいたしました。

オセロ

全軍の者が、先驅の雑卒らまでが、彼女の大切な肉體を賞玩してをらうとも、おれはまだ幸福だったんぢや、知らずにさへをつたなら。おゝ、もう永久に此心の平穩は去ってしまった！ 満足は去ってしまった！ 野心をも美德とならせる羽飾を著けた軍隊も、目ざましい戦争も、もうさよならぢや！ おゝ、もうさよならぢや！ 高嘶をする軍馬も、すゝどい喇叭の音も、心を躍らせる陣太鼓も、耳を貫く軍笛も、あの莊嚴な大旗も、名譽の戦争には附物のあらゆるあの特質、譽れも、飾りも、立派さも、もうさよならぢや！ おゝ、汝、おそろしい大砲よ、粗暴い喉で以て、不死不滅のデョーヴ神の物すごい雄叫びの眞似をしをる大砲よ、汝ももうさよならぢや！

オセロの職分は去ってしまった！

めつさうな、とんだ事を！

イアゴ

オセロ

やい、おのれ（と突然イアゴの胸ぐらを取って）俺の妻は慥かに淫婦か、きつとさうか、現の證據を見せをれ。でないと、不死の靈魂を誓ひにかけて、汝は犬であつたはうが優であつたらうぞ、俺の憤激に應へるよりは。

イアゴ

ま、それほどまで！

オセロ

現の證據を見せをれ。少くも疑念を懸ける隙も、穴も、手がかりも無い程度の證據を舉げい。でないと、命はないぞ！

イアゴ

ま、ま、閣下……

オセロ

萬一にも彼女を讒誣し、俺を苦しめをるんぢやと、もう祈禱は無要ぢやぞ。慈悲心も棄てい、どんな悪行をも積み重ねい、天を泣かせ、地を愕かすやうな悪事をも行ひをれ、此上の墮地獄罪を加へやうはないんぢやから、うぬ。

此間に、イアーゴは、地上へ押附けられて、へたばる。

イアゴ

おゝ、こりやどうも！ おゝ、とんだ目に、お逢はせなされる！

：ねえ、もし、貴下は丈夫ですか？ 魂ひや分別を有つておいでな

さるんですか？ ……（徐かに起ち上つて）さよなら、御機嫌よろしう。

私は退職いたします。 ……おゝ、何てみじめな馬鹿ものだ、正直

が過ぎた爲に悪者に思はれる。 あゝ、奇怪千萬な世の中！ 世間

の人達、御用心なさい、正直にするのゝ危険ですぞ。 ……（オセロ

に）有難うございます、學問しました。 これからア人に深切なんか

しますまいよ、怨まれるばかりですからねえ。

と行きかける。

オセロ

いや、待て。 正直にせにやならんわ。

イアゴ

いゝえ、もう伶俐になります、正直は大阿呆です、爲を思つて爲て

損をしますからね。

オセロ

（思ひ惑つて）えい、どう考へたらえい！ ……妻は貞實のやうでもあ

るし、不貞のやうでもあるし、汝の言ふ事が、正しいやうでもある

し、正しくないやうでもある。 えい、現の證據が見たいわい。 月

神の面のやうに淨かであった彼女の名が汚れた、俺の顔のやうに穢

うなつた。 細か、劍か、毒か、火か、人を溺らせる川か何か？ あ

りや迎ももう堪忍ならん。 たしかな證據が見たい、證據が！

こりや、まアえらいお腹立！ とんだことを申し上げてしまひまし

た。 ……證據が見たいとおっしゃるんですか？

オセロ

見たいどころか！ 見ずにはおかんわ。

イアゴ

随分、御覽は出来ます。 が、如何いふ風に？ 如何な風にして其

證據を？ 現場で、馬鹿な顔をして御覽じようてんですか？ ……奴

が奥さんに乗ッかつてるところを？

オセロ

ちゝ畜生ッ！ けがらはしい！

イアゴ

その現場をお見せするの、こいつア大ぶ難澁い爲事なんですさ。はて、二人で寝てる所を他人の目に見せるなんての、何が何でも餘りな所行なんですからねえ！……（オセロに）とすると如何しませう？ どうしたらようござせう？ 困りましたねえ。如何したらお氣が済むだらう？……現場を見ようとおっしゃるのは御無理でさ、よしんば、彼奴らが山羊や猿や盛り附いた狼や食ひ酔った癡漢なんぞのやうに淫亂だつて。が、つい其事實の入口まで御案内する程度の確實な事情をお話するだけで、それで、お氣が済むんですなら（お易い御用です）申し上げませう。

オセロ

彼女が不義しとるといふ活きた理由を知らせい。

イアゴ

あゝ、いやな役だ。が、馬鹿正直な心から、つい、斯う乗ッ掛ッちまつた以上、申さないわけにやいかない。……つい最近の事です、キヤッシオーと同衾してをりましたが、齒が痛んで寝られませんでした。……人によつちや眠ると心が緩んで祕密をつい口走る者があります、キヤッシオーがそれなんです。聞いてますとね、寢言なんです「デズデモーナさま、御用心なすつて二人の仲を氣取られないやうになさいまし」、……それから、私の手を掴んで振廻して「おゝ、かはいゝお方！」といって、手づよく接吻をしたんです、まるで私の唇に生えてでもゐるものを引ッこぬかうとするやうに、それから、私の腰へ脚を乗せて、溜息をします、接吻をします、それから又斯ういふんです「あゝ、憎い運命め、なぜあんたをムーアなんかに與りやアがつたんだ！」と。